始

尋常小學

新地理書解說

（尋六）

京都府女子師範學校前主事　增澤淑著

東京　明治圖書株式會社

大正
15.10.16
内交

263.6-121

凡例

一、本書は大正十五年度から兒童に持たせる尋常小學地理書卷二即ち第六學年用を教授するに當つて、最も適切な參考書たらしめようとする目的を以て編纂したものである。

二、されば本書は兒童用書の章節に從ひ、教授の主眼、教材の解說、教授上の注意の順序を以て記述して居るが、挿畫の解說は說明の都合のよい所に入れてある。

三、教授の主眼に於ては、兒童用書の各章節の要旨を簡明に示したものである。

四、教材の解說は卽ち本書の最要部をなすものであつて、幾多の參考書を繙き、且つ教材の異動を調査して教科書の不備の點を修正して教壇に立つ餘暇のない多忙な教授者の爲めに、極めて懇切に教材を解說したものである。例之、兒童用書の統計は大正九年、十年のものによつて居るが、本書には大正十年以後十二年迄の統計を累計的に示し、兒童用書編纂後の消長を明にして居るが如きは本書の最も特色とするところである。

五、挿畫の解說は著者が別に執筆せる「新地理書挿畫解說」尋六用と相俟つて兒童用書の挿畫を說明したものであるが、尙多少の出入がないでもない。詳細の解說は同書に

讓つて繁を省いた點もあるから、本書と共に同書を參照せられることを希望する。

六、本書には記事に關係ある挿畫數十箇を挿入して置いた。教授の際には是をも利用せられることを希望する。

七、教授上の注意は各教材を取扱ふに當つての注意を簡明に記したものである。

八、兒童用書にある比較的古い統計は、よろしく本書により て修正して教授せられることを望む。

九、本書は主として地理を教授する立場に立ちて各教材の解說を試みたものであるが、地理の學習に關しては經驗深き奈良女子高等師範學校訓導鶴居滋一氏の「地理の學

習指導」と云ふ書物が出て居るから、これを推奬したいと思ふ。

十、地理を教授するに當つては、適當な教辨を必要とする。著者の知れる範圍では東京造畫館で發行した地圖、掛圖類が比較的良いと思ふ。殊に寫眞を應用した「新撰地理掛圖」は此の種の掛圖中の白眉である。

大正十五年二月

著者識す

尋常小學 新地理書解說（六學年用）

目次

第一編　北海道地方……（一）

第一章　區域……（一）

第二章　地勢……（三）

第三章　產業……（八）

第四章　交通……（三一）

第五章　都邑……（三五）

第六章　千島列島……（四〇）

第二編　樺太地方……（四八）
第一章　區域……（四八）
第二章　地勢……（四九）
第三章　產業……（五一）
第四章　都邑・交通……（六三）
第三編　臺灣地方……（六七）
第一章　區域……（六七）
第二章　地勢……（六九）
第三章　氣候……（七五）
第四章　產業……（七九）

第五章　交通……（一一五）
第六章　住民……（一一九）
第七章　都邑附澎湖島……（一二三）
第四編　朝鮮地方……（一二九）
第一章　區域……（一二九）
第二章　地勢……（一三三）
第三章　產業……（一四二）
第四章　交通……（一六四）
第五章　住民・都邑……（一七〇）
第五編　關東州……（一七九）

第六編　日本の總說……（一九三）
第七編　アジヤ洲……（二五七）
第一章　總論……（二五七）
第二章　支那……（二六九）
第三章　シベリヤ……（三一五）
第四章　印度……（三二八）
第五章　東南アジヤ……（三三七）
第八編　ヨーロツパ洲……（三四九）
第九編　アフリカ洲……（三九七）

第十編　北アメリカ洲……（四一二）
第十一編　南アメリカ洲……（四四八）
第十二編　大洋洲……（四六九）
第十三編　世界と日本……（四九三）
第十四編　地球の表面……（五〇〇）

——目次終——

尋常小學新地理書解說

尋常小學

新地理書解說 尋六

增澤淑著

第一編 北海道地方

第一章 區域

一、教授の生眼

〔1〕北海道地方は新開の土地で、內地とは事情を異にすること。

〔2〕其の行政區も內地とは多少趣を異にしてゐること。

二、教材の解說

北海道地方は津輕海峽を挾んで奧羽地方と相對し、西に日本海あり、北はオホーツ

ク海に面し、南は太平洋に臨んでゐる。我が國第二の大島たる北海道本島、其の屬島たる奥尻・禮文等、並に千島列島とから成つてゐる。

面積は本島が五千八十四方里、千島三十一島が一千十一方里、合計六千九十五方里あつて、大さ本州・朝鮮に次ぎ、我が國總面積の一割四分を占めてゐる。

此の地方は明治維新前は蝦夷と稱し、久しく松前氏が管轄してゐた處で、其の開拓は遲々として進まなかつた。明治二年七月、始めて開拓使を置き八月蝦夷を改めて北海道とし、渡島・後志・石狩・天鹽・北見・膽振・日高・十勝・釧路・根室・千島の十一國に分ち、更に之を八十六郡に分けた。明治十九年始めて北海道廳を置き、長官をして之を治めしめた。現時の行政區劃では、函館・小樽・札幌・室蘭・旭川・釧路の六市と、十四の支廳とに分けてある、而して之を總轄する北海道廳は札幌にある。

三、教授上の注意

〔1〕地理附圖には支廳名を入れて、國名は省いてある、唯一つ釧路だけは支廳と呼ばないで、釧路國と呼んでゐることに注意を要する。

〔2〕本道の地理を學ぶ間に、國名が山脈の名や支廳の名になつてゐるから、一應國名を授けるがよい。

〔3〕支廳の面積は小は檜山の百八十四方里から、大は上川の六百三十九方里の間にあつて、著しく不同であるが、大體支廳は內地の縣と其の面積が略似てゐる。

〔4〕支廳の位置は必要に應じ、地圖によつて觀察させるがよい。

第二章　地　勢

一、教授の主眼

北海道地方の地勢の概要を授けて、其の產業・交通等との關係を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕山脈　北海道本島は、菱形の主要部と、之から西南に突出してゐる半島部卽ち

渡島半島とから成つてゐる。

此の菱形の南端から北端にかけて、一續きの山脈がある、南部を日高山脈、北部を北見山脈といひ、この兩山脈を合せて蝦夷山脈とも呼ぶ。

日高山脈中にはピバイロ岳（二千十七米）の如き高峰が聳え、又花崗岩の露出してゐる所が少なくない。北見山脈は之よりも低く、天鹽岳（千五百九十米）を最高峰としてゐる、此の兩山脈即ち蝦夷山脈は、實に北海道本島の重要分水嶺であつて、本島の主な河川は、概ね此の山脈に發源して、或は西に流れて日本海に入り、或は東南流して太平洋に注ぎ、或は東北流してオホーツク海に朝してゐる。

千島火山脈は千島列島から來つて、知床半島に入り、延びて本島の中央部に至つて、蝦夷山脈と交りこゝに數多の火山を噴起してゐる、本島第一の高峰たる旭岳（二千三百四十五米）・石狩岳（二千三十九米）・オプタテシケ（千九百八十米）・等は、中にも著名な火山である、石狩・天鹽・十勝等の諸大河は、何れもこゝに發源してゐる。

西南の半島部には、丘陵性の山岳が波狀に起伏するのみであるが、其の中には那須火山脈が通じてゐて、數多の火山を屹立せしめてゐる、洞爺湖の附近に峙つ有珠岳、登別岳（千二十三米）、支笏湖附近の樽前岳（一千二十三米）・マッカリ岳（千三百五十七米）、渡島半島の惠山・駒ヶ岳（千三百五十三米）等は其の主なものである。これ等の火山中樽前岳や有珠岳は、近年烈しい活動をしたので著はれてゐる。

挿繪　駒ケ岳と大沼

この繪は大沼附近の高處から、駒ヶ岳を望んだ景である、駒ヶ岳は那須火山脈に屬する火山で、山容奇峭、高さ一千三百餘米、山頂には長徑千米、短徑八百米の火口がある。大沼は駒ヶ岳の噴出物が、駒ヶ岳と其の南に峙つてゐる横津岳との溪間を堰止めた爲めに出來たいはゆる堰塞湖である、函館より十六哩八、大沼は大小二つに分れ周圍八里、湖中に大小百二十八箇の島があつて、闊葉樹が其の上に茂つてゐる、夏季舟遊に適し又好箇の避暑地である、兩沼は相連つて瓢形をなし、其の狹

い所をセバットと稱し、鐵橋を架し汽車を通じてゐる、汽車この水郭を走るとき、仰いで巍然たる駒ヶ岳を見、俯して無數の島嶼碧水に浮べるものに接する、正に北海道第一の公園、新日本三景の一ともいはれる。

〔2〕**川・平地**　蝦夷山脈と千島火山脈との相會する處は、本島の高地點であつて、大小の河川の水源となつてゐる、即ちこゝに發して西南流するものに石狩川があり、北流するものに天鹽川、東南に赴くものに十勝川、東北流するものに常呂川・湧別川等がある。

石狩川　源を石狩岳に發し、西に向つて上川盆地を貫流し、旭川を過ぐるや、間もなく神威古潭の峽流をなし、石狩平野に出で、右岸に雨龍川左岸に空知川を容れ、西南流して江別附近に於て、左岸に豐平川を合はせ、石狩町附近に於て洋々として日本海に注ぐ。本川は我が國屈指の大河であつて、長さ九十二里二十八町、河上汽船は遠く空知川の會點まで溯ることが出來る、其の流域は、北海道の諸平野中面積最も廣く、開拓も亦最も進み、住民も割合に多く、本道經濟上最も必要な處である。

天鹽川　北見山脈の天鹽岳に發し、略々北流して北見・天鹽兩山脈の間に峽流を作り、夫より北西北流し天鹽港附近で日本海に入る、長さ七十七里二十六町、天鹽川の上流地方には、處々に小盆地あり、森林に富んでゐる、今や鐵道宗谷線も開通したから、開拓も次第に進むことであらう。

十勝川　オプタテシケ山の附近に發し、南流して十勝平野に出で、帶廣の附近で左岸に音更（おとぶけ）川、右岸にサツナイ川を容れ、池田に至つて左岸に千島火山脈に發する利別（としべつ）川を合はせて、東南に向つて流れ、大津の附近で大平洋に注ぐ、全長四十九里三十二町、本道第三の河流である、其の流域に開展してゐる十勝平野は、鐵道根室線の開通以來、開拓が大に進み、石狩平野に次ぎ本道重要の農業地となつた。

〔3〕**海岸**　北海道本島は一般に出入が乏しくて、良灣と稱すべきものは甚だ稀である、今天然の良港灣と稱する程でもないが、主なものを擧げて見ると、本州に渡る門

戸として津輕海峽に臨んでゐる函館灣、内浦灣一名噴火灣の口に位する室蘭灣、石狩平野の大門戸で日本海に臨んでゐる小樽灣（石狩灣）等で、これ等は北海道の三要灣である、何れも築港工事を施したため、船舶の出入が便利である、之に次ぐものには太平洋の釧路、宗谷海峽に臨んでゐる稚内、根室海峽の根室等がある。

三、教授上の注意

〔1〕山脈・山岳・分水嶺・平野・河川・海岸の出入等の大略は、總て兒童に、地圖によつて自學的に觀察させるがよい。

〔2〕或る海岸線の長さを、コンパスを用ゐて測らしめてもよい。

〔3〕略地圖を用ゐて山・川・平野等の記入をさせるがよい。

第三章　産　業

一、教授の主眼

〔1〕北海道の住民の大略。

〔2〕氣候と農業との關係。

〔3〕産業中特に農業は内地と異なり、大農的であること。

〔4〕各種の産業が近年大に發達したこと。

〔5〕移住植民地として價値の大きいこと等を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕**住民**　北海道地方は久しくアイヌの棲んでゐた處であるが、明治五年には各地に散在してゐる一萬五千のアイヌと、九萬六千の日本人と、合計十一萬一千餘に過ぎなかつた。

アイヌは生存競爭・不衛生・幼兒保育の不完全等が原因となつて、人口減少の傾向がある、大正二年には一萬八千七百と數へられたが、同十一年には一萬五千七百人となつた。アイヌは體格一般に偉大で、身長男子は五尺七寸餘、女子は五尺に達してゐる。

容貌は內地人と大差ないが、頗る多毛の種族で、男女ともに毛が深い、女子は臺灣の蕃人と同じ樣に、耳飾をする風を有し、既婚の女子は往時口邊に黥する風があつた。性質は溫順であるが、懶惰の風がある、彼等は漁獵を業とし、多くは農業を營むことを知らない、從つて食物は從來魚肉・鳥獸の肉を用ひてゐたが、今では內地風の食物を取るものもある、一般に酒を好むことが甚しい、家屋は一般に矮小粗雜である、敎育は今や兒童を國費の小學校に容れしめ、又は委託料を交付して敎育を施してゐるが、相當の成績を擧げてゐる。

維新前に於ける北海道の住民の狀態は、前述のやうであつて、土地の開拓も行はれず、移民の奬勵もなく、全く北海道は放任の姿であつた。

然るに明治二年七月北海道開拓の目的を立てゝ、開拓使を置き、同十五年一月に至り、函館・札幌・根室の三縣を置き、同十九年一月之を廢して、北海道廳を置き、爾來今日に至るまで、大に移民の誘致に力を用ゐたから、主として奧羽・北陸の地方から、年々六七萬の移住者があつて、大正十年には二百三十四萬一千の人口を有するやうになつた、しかし土地の廣大なるに比するときは、尙甚だ稀薄であるのを免れない。

北海道に於ける人口の增加は、次に示す通りである。（單位千人）

明治四十年	大正元年	同　五年	同　十年	同十三年（推計）
一、三九〇	一、七三九	一、九八五	二、三四一	二、八三一

かゝる人口の增加と、交通機關の發達とは、大に土地の開拓を進め、著しく諸種の產業を發達せしめた、特に農業と工業とは其の進步著しく、其の生產額農業は一億五千五百萬圓、工業は一億三千百萬圓に上り、北海道開拓の先驅をなした水產業（九千七百萬圓）を凌駕するやうになつた。

挿繪　北海道本島に移住する人々

此の繪は、北海道の咽喉たる函館港の棧橋に、內地からの移民が上陸する光景である。北海道廳は移住者に對し、船車賃の割引をなし、開墾の指導を行ひ、未開地

處分及び課税上に特典を與へ、補助金を交付して、學校を設けしめ、醫師を配置する等のことをしてゐる。次に北海道へ來住した最近三ヶ年の人口は、大正九年に八萬一千、同十年に六萬八千、同十一年に六萬で、主として奥羽・北陸の兩地方から移住したのである。

〔2〕**水産業**　北海道の近海には、寒暖の二流があつて、古來鮭・鱈・鰯・柔魚・海扇（ほたてがひ）・昆布等の産に富み、世界三大漁場の一に數へられる、近年人口も大に增加し、交通機關も著しく發達したから、自濫獲に陷り、鮭其の他の魚族の減少したものもあるが、沖合漁業は漁具・漁船の改良に伴ひ、次第に發達して來たから、漁獲高も多少增加の趨勢を示してゐる。

左に最近三ヶ年の漁獲高を示さう。（單位千圓）

	大正十年	同十一年	同十二年
漁獲高	四二、七〇九	四五、九七一	五三、六八八

即ち漁獲高では全國漁獲高の五分の一を占めて第一に居る、次に主な水産物の種類別漁獲高を擧げよう。（大正十二年）（單位千圓）

鮭	一六、六〇三	柔魚	一一、一八八	鮭	四、六三四
鱈	三、六一二	鰯	一、七八三	鰊	一、五九六
鰯	一、三三五	昆布	三、七六六	海扇	一六四

前記の水産物は乾物・燻製・鹽漬又は肥料等に製造されて、各地に送られるものが多い。

最近三ヶ年の製造品の價額は、左の如く、全國製造高の約三割を占めてゐる。（大正十二年）（單位千圓）

鰊粕	一〇、〇五二	其の他の肥料	九、六五七	鰹	五、七八〇
身欠鰊	四、二二九	鰊粉（かすのこ）	二、七〇〇	貝柱	二、六五九
鹽鮭	二、七一一	鹽鰯	一、〇三二	鹽鱈	一九一

これ等の製造物は、其の産額何れも府縣中第一位を占めてゐる。

挿繪　北海道本島に於ける鰊の陸揚（留萌港）

この繪は本島の西海岸、留萌（るもえ）に於ける鰊の陸揚の景である。漁獲した鰊を小舟で海岸に運び來り、更にモッコに入れて脊負ひ、鰊小屋に運び、食糧に製造するのである、近時はモッコで運ぶ代りに起重機を用ゐて揚卸することも行はれる。

挿繪　さけの川上り

鮭は海に居る魚であるけれども、產卵期には、群をなして川を溯り、鯉の瀧登りの如く、急流を物とせず上流へ進むのである。そして澤山上つて來る時には、魚群の脊を渡つて歩くことが出來るし、棒を立てると、棒が倒れないで、立つた儘動いて行く。されば鮭は容易に漁獲することが出來るが、北海道では河で漁獲することが禁ぜられ、海で漁るのである。

〔3〕農業・牧畜

（イ）農業概說　北海道本島は、其の面積奥羽地方に新潟縣を加へたものに匹敵し山岳も丘陵性のものが多いから、農業・牧畜に適する土地も頗る廣くて、其の面積二百五十五萬町歩、關東地方の耕作地の約三倍に當つてゐる。されば本道の拓殖を圖るために、大に移民の保護奬勵に意を用ゐ、農作物の品種の適否試驗、新種の輸入・馬耕法・器械使用の奬勵等を行つたから、農業は年々數千町歩の新開墾地を得、耕地面積大正元年には六十一萬八千町歩であつたが、同十二年度には八十二萬六千町歩に及んでゐる。更に明治二年開拓使設置當時の八百餘歩に比べると、今日は實に隔世の感がある。

挿繪　森林を伐開いて開墾してゐる所

北海道はもと森林を以て蔽はれてゐたが內地から移民が續々渡來する樣になつてから次第に開墾されて耕地が年々增加する。

移民が新開地に入ると先づ荊棘を開いて附近の樹木を以て矮小な草小屋を作り之に住居して漸次改造するのが例である毎年四月下旬から十一月まで農耕に從事し十

二月から翌年三月まで冬季積雪の間或は伐木に或は藁細工の副業に從事する、耕馬を有つてゐるものは冬期農閑中木材の運搬等に從事する。

こんな工合に勤儉蓄積の後始めて家屋を木造とし倉庫を設け果樹其の他の樹木を栽植し又は畑地を水田に變ずる等漸次集約的施設經營をして其の利益を增進し生活を昂上するのである。

北海道に於ける耕地分配の割合は、內地に於けるものよりは遙に大きく、一戶前通常五町歩である、更に大なるものになつては、一農場の面積十町・二十町・三十町夫れ以上のものも少なくない、かく廣大な農場に、盛に馬力や器械を用ひ、特に近時はトラクターと稱する大器械を使用するやうになつて來、尙且つ未墾の原野も少なくないから、本島農業の將來は有望なものである。

唯北海道は內地に比べて、冬季稍々寒冷に過ぐるは勿論、夏季の溫度が一般に低く且つ夏季の短いのは、農業經營上不利が少なくない。

今札幌・旭川に於ける每月の溫度、並に雨量を擧げて參考に供しやう。（溫度攝氏一八氷點下）

地名＼月	札幌	旭川	平均	雨量（粍）
1	-6.3	-9.9		
2	-5.4	-3.9		
3	-1.0	-4.3		
4	5.3	3.3		
5	10.4	10 0		
6	14.7	75.3		
7	18.9	19.2		
8	20.8	20.2		
9	16.1	14.5		
10	9.6	7.4		
11	3.0	0.8		
12	-3.0	-6.1		
平均	6.9	5.2		
雨量（粍）			一、〇一二	一、〇七三

挿繪　開墾された水田の草取り

森林に人力が加はつて採伐され森林が化して耕地となり水田も出來この廣い水田に苗が植付けられて次第に生長し之に混生した雜草を除去する所である、移住當時よりこゝに至るまでの年月と勞苦とは少なからざるべきも秋の收穫の大なるを想はゞ其の勞苦を償するに足るだらう。

挿繪　阿麻莖の乾場

亞麻は莖から維纖を採つて、織物の原料に供せられ、種子から油を搾つて、藥料・塗料に用ひられる。世界大戰の際、大產地たる露國の產業が惡變してから、北海道

の產額が增加した。

（ロ）主要農產物　北海道の氣候は、ヨーロッパのそれと相似た點があるので、西洋種の作物も耕種されてゐる。農產物中最も重要なものは米で、馬鈴薯・燕麥・菜豆・豌豆・亞麻莖・大豆等之に次いでゐる。今參考の爲め大正十年に於けるこれ等產物の產額を掲げやう。（單位千石）

米	一、四八八	菜豆	五三一	豌豆	一五〇
燕麥	二、四七六	大豆	一、〇〇六	小豆	六六〇
玉蜀黍	四一七	馬鈴薯	一五一、七三三	亞麻莖	一三、六八七

米作の盛な地方は石狩で、特に其の上川地方の如きは、夏季の溫度最高く、風力弱く、本道中最も米作に適し、渡島・後志・膽振の諸國之に次いでゐる。近年用水路次第に開けて、水田の面積を增し、大正三年の米作地は四萬四千町歩であつたが、大正十三年には十二萬町となり、米の收穫高も百七十萬石に上り、本道は米產地として重要の位置を占めるやうになつた。

其の他の作物も、道府縣中第一位を占めてるものが多く、特に馬鈴薯の產額は著しく、亞麻は本道特有の作物である。

この外西南の半島部からは、苹果を產すること多く、大正十二年には產額百七十萬貫に及び、全國產額の二割に當り、青森縣に次いでゐる。

麥類は本道特產の燕麥が主なもので、軍馬の食糧に用ゐられる、全道之が耕種を見ない所はない。

豆類　本道は各種豆類の栽培に適し、各種の作物中、作付段別最も多く、其の產地は十勝を主とし、石狩・後志・膽振・日高等之に次ぐ。小豆は石狩を主とし、天鹽・膽振十勝・日高等之に次いでゐる、菜豆は石狩・後志・膽振等が其の主產地である、豌豆は石狩・膽振・後志に產する、何れも年々府縣に需要される高が甚だ多い。

玉蜀黍は石狩が主な產地で、農家食料、又は酒精の原料として使用されるのである。

馬鈴薯は食料に供する外、或は澱粉を製し、或は酒精の原料とし、或は生塊のまゝ

輸出する、全道殆ど栽培しない處はない。

亞麻は主として石狩に產し、膽振・十勝にも亦栽培行はれる、莖は製麻の原料に供せられ、種子は搾油用として府縣に需要される。

（八）牧畜　北海道は馬耕の盛に行はれる處であるから、馬は農業に缺くべからざるものである、されば土地の開發が進むにつれて、馬の需要が盛になるのは勿論のことである。又牛酪・乾酪・煉乳の製造が、次等に發達して來たから、牛の飼養も盛になつて來た、加之石狩川や十勝川の流域は、雨の少い好牧場が廣いから、これ等の原因により、大に牧畜業の發達を促した、石狩國豐平の道廳の種畜場、日高國浦河町にある日高種馬牧場、十勝國音更（おとぶけ）村にある十勝種馬所、膽振國長萬部（ながまんべ）村の種馬所等は、何れも官設の牧畜として、有名なものである、この外民有牧場は到る處に之を見るのである。

月寒牧場

馬　本島家畜の中最も頭數の多いのは馬であつて、二十萬四千頭に達し、鹿兒島の十萬五千、岩手の九萬五千頭に比し、約二倍の頭數を有つてゐる、其の內十七萬七千頭は雜種で、和種は二萬頭に過ぎない、尙其の內七千は純然たる洋種である、雜種はトロッターヤや、サラブレッドや、ペルシュロン等によつて改良されたものである。

牛　牛は其の頭數遙に馬に及ばないが、次第に增加して今や三萬頭に近い、牛もホルスタインや、エーヤシャー、又は短角などの雜種が最も多い。（以上大正十二年）

〔4〕鑛業

（イ）概說　北海道は多額に石炭硫黃を產する外、金・銀・銅・石油等も產するが、現今重要の鑛物は、石炭と硫黃とである、左にこれ等鑛物について概說しやう。

（ロ）石炭　北海道に於ける最も重要の鑛產物で、本道鑛產總價額四千六百三十六萬

九千圓の中四千百五十七萬六千圓は石炭の占める處で、實に九割に當つてゐる。又內地石炭總產額の一割四分に當り、九州に次いでゐる。本道に於ける主要の產炭地は、夕張山脈附近に橫はつてゐる石狩炭田で、十餘の炭坑から、四百五十萬噸に近い石炭を出してゐる。最近五ヶ年の本道の產炭額は左の通りである。（單位千噸）

大正八年	四、七六三	同九年	四、五一〇
同十年	三、六〇六	同十一年	四、三三五
同十二年	四、八四五		

而して大正十二年の石炭の總價額は、四千百五十七萬六千圓に上つてゐる。別に釧路に三十七萬四千噸二百六十萬圓の石炭を出してゐる。

次に主要炭山の產炭額を擧げやう。（大正十二年　單位千噸）

夕張	一、〇一九	三菱美唄	六一五
三井砂川	三三六	空知	三二〇
幌內	二〇五		
		新夕張	四七七
		奔別	一七二

右の炭山の中、夕張は三池・大之浦に次ぎ第三、三菱美唄は第七、新夕張は第十一の位置を占めてゐる。

（ロ）硫黃　本道の硫黃は產額次第に減少する傾向があるが、約一萬八千噸（價額七四六千圓）を出し、全國の三萬七千噸に對して、凡そ五割を占め、現今本邦第一の硫黃產地である。現時本道に於ける硫黃の主要產地は、後志國奧尻島の奧尻、釣懸の二鑛山・同國の岩雄登（いはをぬぶり）、石狩國平山・膽振國幌別・渡島の鹿部（しかべ）鑛山等である。（大正十二年）

（ハ）金　金は硫黃に次いで百三十二貫六十五萬七千圓に達する、主要金山は北見國紋別の鴻之舞鑛山と、後志國岩內郡小澤村の國富金山とである。

〔5〕林　業

（イ）林地面積　本島に於ける人口の增加は、次第に林地を變じて耕地・牧場となすから、林地面積は次第に減少するが、尙凡そ四百七十四萬三千町歩の森林地があつて、全島面積の約五割に當つてゐる、之が七割五分は國有林であつて、日高・北見の二山脈並に千島火山脈地方に多い、之に次ぐは御料林である。

(ロ)林相及び林産物　北海道の森林は針葉樹林、針闊混淆林並に闊葉樹林の三種に大別することが出來る、其の內最も廣いのは、闊葉樹林であつて、針濶混淆林之に次ぎ、針葉樹林は最も少い、濶葉樹には、カツラ・ホホノキ・キハダ・イタヤ・センノキ・エンジユ・ヤチタモ・アカタモ・クルミ・カシハ・ナラ・カバ・ハンノキ等がある、針葉樹ではエゾマツ・トドマツ・オンコ等が主なものである。

北海道の白樺の林

これ等林産物は建築用材、鐵道枕木・製紙原料、電柱材・車輛材、家具・製軸材及び木材として、道內及び府縣の需要に應ずる外、支那其の他にも輸出する、大正十二年に於ける之等林産物の價額は、針葉樹に一千二萬圓、濶葉樹に五百六千萬圓、別に薪炭材として約五百萬圓を産した。

これ等木材の積出港は、小樽を第一とし、釧路・函館・室蘭等之に次ぎ、近時稚內からも積出すやうになつた。

エゾマツ　寒地に生ずる松杉科の常綠喬木で、幹の高さ十丈乃至十五丈に及び、下部の枝は少しく下に垂る、樹皮黑褐色で稍灰白色を帶び、鱗片狀をなして脫落す、葉は長さ七八分あるが、幅は一分に足らない、先端尖り、上面は光澤ある暗綠色、下面は灰白色で二條の線を有する、果實は長楕圓形をなし、長さ二寸直徑六七分、材は白色微黃、肌理少しく緻密柔軟で、彈力を有し、脂氣多く、水濕に堪ふる性があるから建築材に供せられ、又船舶器具を造るに用ゐられ、製紙原料・新炭ともなる。

トドマツ　樅と同屬の常綠喬木で、エゾマツに混生するが、之よりも一層陰地を好む、樹皮灰白色で裂け目なく、細枝に短き剛毛密生する、葉は長さ一寸乃至五六分、

幅は六七厘、上面暗綠色で、下面は灰白色である、果實は長さ三寸餘、直徑一寸、材質效用共に殆どエゾマツに同じである。

〔6〕工業

(イ)概說　北海道は農業・林產・水產業の如き、原料產業に意を用ゐて來たから、未だ工業の盛大を見るに至らないが、石炭や水力の使用が便利であるから、二三の特殊の工業に至っては、大規模に經營され、其の發達も著しいものがある。而して工產總價額は一億三千萬圓をこえて、將に農產物と肩を並べんとする狀態である。今本道の重な工業を見るに、農產物を原料とするものに、清酒・麥酒・澱粉・製粉があり、林產物を原料とするものに、パルプ及び製紙・マッチ軸木あり、水產物を原料とするものに、罐詰・鹽化加里・沃度等がある。

(ロ)主要工業　本道の工業品中には、澱粉・製鐵の如き世界戰爭終熄後、時局の影響を受けて、產額大に減退したものがあるが、其の他は概して順調に發達し、左に示すやうな產額を擧げてゐる。（大正十二年單位千圓）

洋紙	二三、九六六	諸機械	一八、六六七
酒類	一七、三八一	製麻	六、四五九
麥酒	五、二〇八	セメント	一二、三六八
澱粉	三、七四六	製鐵	二、〇九七

前表中、酒類・麥酒・機械・製麻は大正十年の事實である。

洋紙の產額は全國第一に位し、靜岡（一千六百八十五萬二千圓）・東京（一千五百九十萬圓）と共に、洋紙の三大產地をなしてゐる、澱粉は全國產額の三割七分を占めて第一位に居り、セメントは渡島國上磯郡にある淺野工場より出し、福岡（一千八百六十八萬六千圓）に次いで第二位である。

亞麻製絲は日本製麻株式會社並に帝國製麻株式會社に屬する三十五箇の工場で行はれ、麻絲紡績・麻織物に就いては、帝國製麻會社の札幌工場に行はれるのみ、亞麻製絲は帷子絲・蚊帳絲・疊緣絲・花莚經絲・漁網用捻絲・帆及靴其の他の縫絲に供せられ、又

織物は軍艦商船用帆布、雨覆ズック・生晒服地、各種リンネル等に使用される。

鐵は主として銑鐵で、四萬八百四十二噸を出し、釜石の六萬九千四百五十八噸、戸畑の五萬四千萬七十噸に對し、我が私設製鐵所の第三位にある、こは近年輪西製鐵所を合はせた室蘭の日本製鋼所から出してゐるのである。

製紙又はパルプの工場としては、其の規模の宏大なこと苫小牧の右に出るものがない、其の他江別(石狩)金山(石狩)池田(十勝)釧路(釧路)等にも、亦大きな工場がある、而して本道に產する洋紙は、殆ど全部印刷料紙であつて、其の他には小額の包裝用紙があるのみである。

清酒・麻・麥酒は、主として札幌にある工場より產出し、澱粉は專ら馬鈴薯から製するものであつて、近年減少したけれど、尙大正十二年には四億四千五百萬斤に達し、全國產額の三割七分を占めて、本邦第一に居る、遙に下つて千葉・東京・神奈川が之に次いでゐる。

北海道の澱粉の主產地は、山越郡八雲村、上川郡士別町、虻田郡眞狩村、空知郡奈井江村等である。

挿繪　苫小牧にある製紙工場

此の製紙工場は、東京府王子町にある王子製紙株式會社に屬する苫小牧工場で、明治四十三年九月の開場である、工場用敷地が五十四萬七千坪もあるといふ一事に依つても、其の規模の宏大なことが解る、工場は鐵骨煉瓦建で、平屋と二階建とある附屬建物を合せると總建坪が一萬八千坪もある、此の工場の仕事はエゾマツ・トドマツを原料として、新聞用紙・雜記帳用紙・更紙・包裝用紙等を製造するにある、圖中に見える高く積み上げた木材は、パルプ製造用のものである。而して本邦新聞用紙の四割はこゝから出すといはれてゐる。

挿繪　室蘭にある製鐵所

此の繪は日本製鋼所の工場を見せたものである、左方から海岸に突き出してゐる

二個の埠頭の中、手前のものは製鋼所埠頭で、長さ約四百四十米其の先端に立てるは百噸起重機である、向のものは石炭を船積する時に用ゐる高架棧橋である、切圖は工場内で砲尾の仕上げ作業をやつてゐる所である。並んで見えてゐる砲は陸海軍用の重砲である。

三、教授上の注意

〔1〕北海道の夏は内地に比べて溫度低く且つ短いこと、又内地の農産物と異なるものあることに注意するがよい。

〔2〕北海道の農場の面積、並に耕種の方法が内地と趣を異にすることに注意するがよい。

〔3〕バルブ・肥料・亞麻・洋式農具等は、實物又は繪畫を示したい。

〔4〕氣候についてはグラフを作り、臺灣・内地と比較して示すがよい。

〔5〕附圖第十四圖の利用を忘れぬやうにしたい。

第四章　交　通

一、教授の主眼

北海道に於ける交通の現狀、之が發達の理由、並に產業との關係を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕鐵道　鐵道は土地の開發上頗る必要のものであるから、北海道の土地の開發が大に後れた處であるに拘はらず、鐵道の敷設は意外に發達して、其の延長殆ど千四百哩に達してゐる。

今本道に於ける主な鐵道を見るに、函館線は函館に起り小樽・札幌を經て旭川に至る其の延長二百六十五哩四、根室線は函館線の瀧川驛に分かれ、帶廣・釧路を經て根室に至る、延長二百七十八哩、函館線と長さ略々匹敵してゐる、宗谷線は旭川に起り、天鹽川に沿ひて北進し、遂に北海道の北端稚内に至る、長さ百七十三哩五、以上の三線

は共に北海道鐵道の幹線である。

尙其の他の主な線路及び、延長を示せば左の通りである。

線路	延長哩	線路	延長哩
室蘭線	岩見澤・室蘭間 八六・七	網走線	池田・網走間 一二〇・四
名寄線	名寄・野付牛間 一二三・三	留萬線	深川・增毛間 四一・二

〔2〕航路　北海道の近海は、春夏の交屢々濃霧即ちガス、又は流氷の爲に、海上の交通を妨げられることがある。流氷は冬季海面に生じた氷塊が、氣溫の高まるに從ひ離陸又破碎し、海流と共に漂ひ來るもので、濃霧は春夏の交南方海上から吹き來る暖風が、寒流上の冷氣に觸れ、其の齎らす水蒸氣が凝結するものである。

函館・小樽・室蘭の三港は、其の位置の良好なるため、北海道に於ける航路の三中心で、函館は既に築港を終へ、小樽・室蘭は工事中である、函館と青森との間には優秀なる鐵道連絡船の往復してゐることは、既に述べてた、稚内と樺太大泊との間にも、亦輕快な鐵道連絡船が往復してゐる。其の他室蘭と青森・小樽と大泊、函館及び小樽と浦鹽斯德との間にも、亦定期船が往來してゐる、北海道の諸港と內地諸港との間に、船舶の往來あるは勿論のことである。

今左に大正十二年北海道の主な港に入つた、內外國の汽船・帆船の噸數を掲げて見やう。（單位千噸）

	外國船	內國船	合計
函館	三二一	二、六七一	二、九九二
室蘭	三四三	一、七五九	二、一〇二
小樽	七一六	五、二六二	五、九七八
釧路	二三	五〇九	五三二
根室	三	二二九	二三二
稚內	—	二二〇	二二〇

前表によつて見るときは、小樽・函館・室蘭が北海道の三要港であることが解り、中にも小樽が諸港中遙に重要の港たることが知られる。

挿繪　小樽港

この繪は小樽公園附近の高處から、市街をへだてゝ小樽港灣を瞰下した景である、左から右へ向つて長く海中へ突出してゐるのは、長さ二百八十六米、高さ二百八米ある石炭を船積するための高架棧橋で、其の向に見えるは第一防波堤で、長千三百八米、更に右方に長さ二千三百三十九米の防波堤がある、港内の諸設備は、未だ出來上らないが、完成の日には本道第一の良港となるであらう。

三、教授上の注意

〔1〕兒童をして地圖について交通の狀態を調べさせるがよい。

〔2〕鐵道の幹線は、兒童に發見させたい。

〔3〕白地圖を與へて、主な鐵道と船路とを記入させたい。

〔4〕鐵道の發達が、產業の開發を促した理由を考へさせたい。

第五章　都　邑

一、教授上の注意

〔1〕北海道の市街が、何れも市區井然たること並に其の理由を知らせる。

〔2〕各都邑發達の理由を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕概說　北海道は久しく全土森林に掩はれ、人煙極めて稀薄の荒凉たる土地であつたが、明治維新後內地人の移住するもの漸く多く、交通產業も發達するにつれて、都邑も次第に發達した、中にも開拓最も進める石狩川流域の平野と、南部の海岸地方とには、其の數が少なくない、數多の都邑中、札幌・旭川・小樽・函館・室蘭・釧路は殊に重要な都會で、近年何れも市制を施行して市となつた。

〔2〕函館　人口十五萬二千、函館灣に臨み、港口西南に關さ、內地から北海道に入

函館市及び其附近

る門戸であつて、青森を距ること六十浬、四時間半、鐵道連絡船が毎日三回運航してゐる。此の地は古い開港場であるが、外國貿易は餘り振はない、大正十二年の輸出高は五百三十餘萬圓で、主な輸出品は左の通り。（單位千圓）

乾鰮	一、一四八	鹽鰮	一、〇六八
昆布	一、〇五九	貝柱	七〇三
海參	一七五	合計	五、三一二

內地及び道內各地への移出高は一億四千三百萬圓に達し、鹽魚、乾魚・乾鰮・海產肥料・セメント・米・和酒・洋酒・木材等が主なものである。

〔3〕**小樽**　小樽灣に臨み石狩平野の門戸に當つてゐるから、石狩平野の開發が進むと共に、次第に繁榮し、人口十二萬三千を有し、小樽・南小樽・小樽築港・手宮の四停車場があり、商業に於ては函館を凌がんとするに至つた。

小樽市

大正十二年の外國貿易は九百萬圓に近く、主な輸出品は左の如し。（單位千圓）

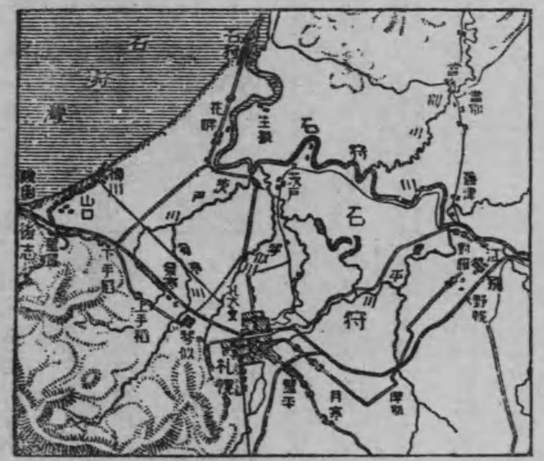
豌豆	三、三六〇	木材	一、九九二
米	三一九	曝元豆	一、四一八

內地及び各地への移出は一億一千四百萬圓に上り、木材・海產物・肥料・小豆・石炭・其の他の豆類・罐詰食料・穀物・澱粉等が主なものである。

〔4〕**札幌**　石狩平野の西南部に位し、石狩川の支流豐平川の左岸にある、街路廣闊井然、本道都邑の代表的のものである。明治二年こゝに開拓使廳を置き、本道施政の中心と定めてから、百般の施設備はり、今や道廳・支廳・地方裁判所・帝國大學・札幌神社等の官衙・學校、其の他銀行・會社各種の工場があつて、人口十二萬五千を有し、實に本道の中心地たるに恥ぢない。西南一里半にある藻岩山は、眺望よろしく山中にはカツラ・ニレ・コブシ・ヤナギ等の、茂つてゐる原始林があり、近郊の名山として名高い。

挿繪　札幌の市街（大通）

北海道廳の所在地たる札幌の市街は、もと曠野に設定されたものであるから、街衢端正碁盤の目の様である。此の挿繪は市街の中央部を見せたもので、繪の正面にある石造の二階建は、大通り西二丁目にある札幌郵便局である、其の向つて左の石造二階建は、北海道拓殖銀行・正面の植込は大通りにある花壇である。又た通りは黒田清隆の銅像や開拓記念碑なども立つてゐる、大通りは市街の殆ど中央に東西に通つた道路で、幅六十間ある、東西に通つてゐる道路は、大通りから北



札幌市及び其附近

に、北一條、北二條、南には南一條南二條と數へ、南北に通つてゐる街路は、南北に通つてゐる創成川を中心として、西に西一丁目西二丁目、東に東一丁目東二丁目と稱へるのである、大通りの外の道路も表通りは幅十一間ある。

〔5〕**旭川**　人口六萬一千を有し、本道第四の都會で、第七師團の所在地である。此の地本島の中央部に位し、上川盆地の中心都會、函館・宗谷・富良野三鐵道の交點に當る、市の附近は北海道第一の米産地で、又市の内外から酒・酒精・醬油・味噌・下駄木・鉛筆等を産する、此の他南に神樂岡の丘陵を望み、東方遙に本道第一の高峰旭岳に對し眺望頗る雄麗である。

〔6〕**室蘭**　内浦灣の東岸にあり、本道屈指の良港で、岩見澤から分岐して、石狩炭田地方を通過し來る室蘭線の終點に位してゐる。外國貿易は木材・石炭・洋紙等、約八十萬圓の輸出あるに過ぎないが、内地への輸出は少なからずして、洋紙・石炭・鐵・機械を始めとし、木材・魚介・鹽魚・乾魚等、其の高七千五百萬圓を超えてゐる、人口五萬

三千。

〔7〕釧路　釧路川の口に位する開港場で、人口四萬六千、東部では第一の都會である、外國への輸出は木材・洋紙・昆布等であるが、其の高僅に百六十萬圓に過ぎない、內地への移出はパルプ・洋紙・木材・石炭・豆類・マッチ軸木等があるが、總高は二千萬圓である。（以上大正十二年）

三、教授上の注意

〔1〕札幌市街の平面圖をよく觀察させて、他の市街を類推させたい。

〔2〕主な市街の繪はがき等を示すがよい。

〔3〕主眼の項に擧げた事項によく注意したい。

第六章　千島列島

一、教授の主眼

〔1〕千島列島は概ね千島火山脈に屬する火山島であること。

〔2〕近海には魚族が多いが、寒氣烈しく人口稀薄であるから、僅に夏季出漁するものがあるに過ぎない。

〔3〕千島列島の近海は海獸の保護區となつてゐること。

二、教材の解說

千島列島は大小三十一の島から成り立つてゐて、北海道の一部である。面積は約一千百方里で、四國島と略々同じである、其の位置、根室海峽から東北に點々相連り、北海道本島とカムチャッカ半島との間に、恰も飛石の如くに排列されてゐる。人口は大正三年に約六千あつたが、大正九年には一萬五千と報告されてゐる、兎に角夏と冬とで、人口の移動が烈しいやうである、列島の中部以北には無人島が少なくない、得撫以北の諸島は、明治八年樺太と交換した處である、千島の近海はさけ・ます等の魚族が頗る豐富であるから、魚期には各地特に北海道本島から、之を漁獲する爲に出場

するものが少なくない、冬季は寒氣はげしく、海岸は氷結するから殆ど船舶の交通が絶える。

又千島の近海には、らっこ・おっとせい等の海獸も棲んで居て、高價な毛皮を產する處であるが、明治四十四年日・英・米・露四國間に締結したおっとせい條約により、東經百四十九度以東、北緯四十五度以北の海上に於て大正十四年十二月十四日迄十五ヶ年間、民間獵者はおっとせいを捕獲することが出來ない樣になつてゐる、又大正三年の我農商務省令によつて、同海面では民間獵者が、あしか・あざらしを捕獲することをも禁止された、あしか・あざらしはおっとせいの敵であるが、一般人に之が捕獲を許すときは、勢おっとせいの密獵が行はれるから之を禁止し、唯官憲の手に依つて之等害獸の驅除を行はうとするのである。（樺太の水產業を見よ）

たっこせい　鰭脚類の目に屬する海產哺乳獸である、牡の身長は一般に牝の二倍ある、八歲以上になると、六尺三寸乃至六尺八寸に及び、其の體重五六十貫に達し、其の年齡は牡は二十年牝十年を保つものがある。四五月の交老牡先づ南方より來り、海岸に適當の繁殖場を求む、七月中旬の頃牝到着して分娩す、十月末に牡牝幼兒相携へて こゝを去り、日本近海・カナダ・カリフォルニヤ沿岸に來游す、其の皮は毬毛密生して極めて軟く、紫褐色を帶び、世に貴重されて價甚だ貴し。

らっこ　得撫・幌莚の近海に棲息する、川獺に似てゐて、頭小さく體肥え、尾扁平、前肢小、後肢大で、後肢の趾間に蹼がある、柔き光澤ある暗褐色の綿毛を被る。游泳頗る敏捷であるが、おっとせいの如く洄游しないで、波の荒い岬角附近に棲息してゐる、毛皮が世に賞用されること、おっとせいに同じである、之を獵獲するには、おっとせいと共に銃を用ゐるのである。

挿繪　たっこせい・らっこ

おっとせいは、南北緯三十五六度から五十五六度の間に棲息する、鰭脚類海驢族の海獸である、我が國に於ける棲息地は、千島と樺太とで、地質の堅い傾斜した乾

燥せる處に於て、七月頃蕃殖し、夫より洄游するものである。

依つて二月頃から六月頃までは、金華山沖から北海道邊で春獵を行ひ、其の後は千島からベーリング海にかけて、「秋獵を行つたものである、獵具は銃である。おっとせいは皮は鞣皮として賞用され、肉は食料、膽囊は藥料となり、脂肪からは油が採れる。

らっこは又うみおそと呼ばれ、食肉類水獺族の動物である、千島の得撫・幌筵等の諸島附近に棲息する、柔い光澤ある暗褐色の綿毛を蒙り、形は川獺に似、頭は小さく、體は肥え、長さ三尺餘、尾は扁平で長さ一尺餘、游泳頗る敏捷である、銃を用ゐて捕獲する。

三、教授上の注意

〔1〕千島列島は、附圖ではカットになつてゐるから、自然の位置を示した地圖を見せて、其の位置を觀察させるがよい。

〔2〕おっとせい捕獲禁止區域を、地圖上に指示するがよい。

〔3〕千島列島の教授は割合に簡單でよい。

〔4〕本島と千島とは縮尺が異つてゐるから、注意しなくてはならない。

〔5〕おっとせい禁獵條約は滿期後は未決の問題である。

第二編　樺太地方

第一章　區域

一、教授の主眼

〔1〕樺太の位置境域を知らせる。

〔2〕樺太の面積並に行政區分の大要を授ける。

二、教材の解說

樺太地方とは、北海道本島の北にある樺太島の南半をいふのである、東はオホーツク海に面し、西は間宮海峽をへだてゝ露領シベリヤに對し、南に宗谷海峽があり、北は北緯五十度線を境として露領に接壤してゐる。南北の長さ約百十六里、面積二千三百三十九方里あつて、臺灣地方より七方里大きく、露領樺太よりは少し小さい、而して

我が國總面積の百分の五に當つてゐる。

此の地方は十七郡に分けてあるが、現時の行政上では、大泊・豐原・元泊・敷香・本斗・眞岡・泊居の七支廳に分けてある、臺灣を七つの行政區に分けてあるのと略々似てゐる、此の地方を治める樺太廳は南部の豐原にある。

此の地方は往年松前氏が探檢したことがあり、或は德川幕府の探檢・經營等の事業もあつたが、當時德川幕府の動搖の時代であつて、十分に我が主權を確立するに至らなかつた、既に黑龍江口に達してゐた露西亞人は、海峽をこえて漸次北樺太から侵入して、種々の事業を經營するに至り、我が國とも屢々折衝を重ねたが、解決するに至らなかつた。我が國は明治七年榎本武揚を露國に遣はし、交渉の結果、遂に翌八年貧弱な北千島を取つて、樺太全土を露西亞に與ふる條約を締結した、然るに明治三十七八年戰役の結果、北緯五十度以南の地を、我に割讓させた、我が國は始めこゝに民政署を置いたが、明治四十三年三月之を廢して、豐原に樺太廳を置き、長官をして之を治

めさせ以て今日に及んでゐる。

挿繪　日本とロシヤの國境及び境界標

この挿繪は北緯五十度に於ける日露兩國の境界を見せたものである、此の境界を制定する爲めには、兩國の境界劃定委員が、明治三十九年七月から翌年の九月までの間、十五ヶ月の內氣候の寒烈な冬季等を除き七ヶ月餘を費してゐる。

北緯五十度附近は東西三十三里餘り（約百三十一粁）、其の間に山岳あり沼澤あり密林がある爲め、委員は多大の困難に遭遇して、東海岸附近（鳴海）に第一、西海岸附近に第四、其の中間に第二第三と都合四箇所で天文學上から、北緯五十度の地點を測定して、境界の基礎となる天測境界點と定めた。而し其の間の森林を伐採して幅五間半の林空事業を行ひ、測地法によつて、其の間に十七箇の境界標石を置き、各標石間は一里半乃至二里半とし、主として山上に之を設置した、四箇所の基礎境界標は、將棋の駒形に造つた花崗石で、切圖に見える通りである、切圖は其の第四のもので南面には我が皇室の御紋章である菊花章に、大日本帝國境界の文字が高彫になつてゐる、北側には當時露國皇室の御紋章であつた双頭の鷲及び南側と同じ意味の露西亞文字を現はし西側には同じく露西亞文字でアストロ四號一九〇六年と刻してある。

三、教授上の注意

〔1〕附圖や挿繪を利用して位置・區劃等を觀察させたい。

〔2〕面積については、既知の地方と比較させるがよい。

〔3〕樺太の行政區はもと、九つであつたが今改正されて七つになつてゐる事に注意するがよい。

第二章　地　勢

一、教授の主眼點

樺太の海岸・山川・平野等の大要を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕山川・平野　本島を南北に縱貫してゐる樺太山脈は、本島重要の分水界をなす山脈であるが、山勢一般に緩かで、山脈中の最高峰である敷香山も、高さ僅に一千三百二十一米に過ぎない。此の外東北部には、露領樺太から來る東北山脈があつて、延びて北知床半島となり、樺太山脈との間に廣大な低濕地を抱いてゐる、此の低濕地は夏季も溫度低く、且つ大部は苔類雜草から成る泥炭種のツンドラであるから、農牧發達の見込がない、幌內川北より來り此の低地を貫流し、曲流すること七八十里、多來加灣に注ぐ、河幅は河口附近で凡そ百五十間、國境附近で三十間內外、樺太第一の河流である、此の川はもと流木河流を塞ぎ、舟行を許さなかつたが、今は之を除いたから獨木船は國境まで溯ることが出來るやうになつた。

又半島の東南部にも、低い鈴谷山脈があつて、樺太山脈との間に低地をいだき、鈴谷・留多加の二川は此の平野を南流して、亞庭灣に注き、內淵川は北流してオホーツク海に注いでゐる、此の低地は夏季割合に溫暖で、樺太で最も重要の農業地であるが、拓殖未だ十分に進まない、しかし今や鐵道も開通し、大泊・豐原・榮濱等の小市街も出來、次第に開發されるであらう。

鈴谷川は鈴谷・樺太兩山脈から發する水を集め、豐原を過ぎ南流して亞庭灣に入る、南部平野の主要の河川であるが、長さは僅に二十里に過ぎない。

留多加川は樺太山脈の留多加山附近に發し、南部平野の中を東南に向つて流れ、留多加附近に於て亞庭灣に注ぐ。

〔2〕海岸　南部に中知床・西能登呂の二半島突出して、其の間に廣大な亞庭灣を抱いてゐる、又東北部に北知床半島長く突き出て、其の內側に多來加灣がある、しかし何れも天然の良灣でない、其の他は一般に出入が少なくて、船舶の出入に不便であると、北海道と似てゐる、亞庭灣の大泊と西海岸の眞岡とは、樺太の二要港であるに拘

はらず、築港の設備も整はない上に、大泊の如きは、冬季海面結氷するから、碎氷船を用ゐて僅に船舶が出入することの不便がある。

三、教授上の注意

〔1〕地勢については、成るべく地圖を用ゐて觀察させるがよい。

〔2〕碎氷船や、幌内川流域の地貌については、特に注意して授けるがよい。

〔3〕海岸結氷の狀は、繪はがき等を用ゐて說明したい。

第三章　産　業

一、教授の主眼點

〔1〕産業と直接の關係ある住民の概要。

〔2〕住民と氣候との關係、産業は未だ十分の發達をしないこと。

〔3〕氣候並に産業の概略を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕**住民**　樺太の住民は之を土人と内地人とに分けることが出來る、内地人は日露戰役後渡來したものである、同戰役前居住して露西亞人は、戰役後其の本國に引き上げさせたから、露西亞人の居住してゐるものは極めて少ない。土人はアイヌ人が最も主なものであるが、其の數は一千四百人に達しない。ニグブン卽ちギリヤークは、僅に九十餘人、オロッコは三百人に足らない、要するに土人は其の人口總數一千七百餘に過ぎない。而して樺太の總人口は少數の支那人露西亞を加へても未だ僅に十四萬に過ぎずして、人口稀薄なこと帝國第一である。（大正十二年）

●●●
アイヌ　各地の海岸にあつて、土人中人口最も多く、其の八割を占めてゐる、其の家屋は狹隘卑陋のアイヌ式で、彼等の間には從來文字もなく、曆もなかつた、夏は河畔に鮭・鱒を漁し、冬は山野に鳥獸を獵し、智慮淺くして、多くは未だ農業を營むことを知らず、生活の程度は甚だ低い。

ギリヤーク　シベリヤにあるギリヤークと同系で、其の數は九十餘人に過ぎない、彼等の生業は略アイヌと等しく、性質魯鈍で、生活の程度はアイヌよりも一層劣つてゐる。

オロッコ　ギリヤークと略同じく北部地方に住し、其の數約三百、彼等は馴鹿の牧養を主生業とし、中には一戸百頭以上を飼養するものもあつて、或は橇をひかしめ或は貨物を運搬させる、彼等は水草を逐うて居を轉じ、野生馴鹿の肉を食用とし、毛皮を以て、衣服や靴を造る、其の他の生活狀態はギリヤークに似てゐる。

要するに、樺太の土人は其の數少なく、且つ開化の程度低き半開の種族であるから樺太の開發上には、彼等に何等の貢献を望まられない。

前述の如く住民の少ないことや、交通機關の發達しないことや、夏季の短かいことなどが原因となつて、產業の著しい發達を見るに至らない。

〔2〕氣候　樺太地方は、國內で緯度最も高いから、氣候は略北海道に同じいけれども、北海道よりは更に夏季短く、冬季が長くて、寒氣が強い、今北海道の最寒地といはれる旭川と、大泊・落合との每月の平均氣溫を比較して見やう。

地方＼月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	平均	雨量（粍）
旭川	-9.9	-8.9	-4.3	3.3	10.0	15.3	19.2	20.0	14.5	7.4	8.0	-6.1	5.2	一、〇一二
大泊	-10.9	-10.0	-5.5	1.0	5.4	9.9	14.3	17.2	18.3	7.1	-7.0	-7.0	2.8	七五〇
落合	-13.3	-13.0	-7.5	0.0	5.5	10.5	14.9	16.8	12,4	6.1	-2.2	-9.3	1.8	八八一

前表によつて見るときは、樺太に於ける夏季は六・七・八・九月の四月で、其の他は大略冬季である、故に樺太に於ける農作物の種類は、北海道に於けるよりも少ない。雨量は概して少なく、南部大泊の附近は、北海道の西部に類似し、其の他は北見地方と同じく、我が國の最寡雨帶に屬してゐる。

〔3〕農業　樺太の夏季がかく短く、溫度の低いことは、農業上頗る不利とする所で

ある。樺太の農業の進歩が遲々として進まざるは、主として之によるものである。樺太の耕地段別は大正二年の四千九百十八町歩から、大正十二年の一萬八千四百町歩に進んでゐるが、領有以來旣に二十年に垂んとしてゐる所から見れば、決して長足の進歩といふことは出來ない、而して溫度の關係上、樺太には水田の發達を見るに至らない。

主要の農產物で且つ有望のものは、燕麥と馬鈴薯とである。左に樺太の主要農產物を擧げて見やう。

	大正九年	同十年	同十一年
燕麥	二六、五七七石	七八、三〇八石	八〇、六五九石
黍	九三一	三、四五七	一、五二八
裸麥	四、八五五	一二、三四四	八、六四四
小麥	七九〇	一、九一二	一、四二〇

前表によつて、穀類中產額の稍大なるものは、燕麥であることが知られる。

〔4〕林業　樺太の森林は、全く原始的天然林であつて、其の面積三百三十五萬二千町歩、實に樺太總面積の九割を占めてゐる、其の材積は針葉樹に十七億七千七百萬石闊葉樹に一億二千五百萬石、合計十九億二百萬石に上つてゐる。近來其の材積を四億石なりとする說あれども、其の何れにするも木材の豐富なことが知れる。林相は海岸の低地から針葉樹の密林を見、延いて低地の山頂、高山の中腹に及んでゐる、針葉樹林に次いで、針闊混淆林となり、更に山頂に至れば全く闊葉樹林となる、而して森林は南部より北部に至るに從ひ漸く密となる。

針葉樹の主なものは、エゾマツ・トドマツ・カラマツ等で、森林面積の七割餘を占めて、海拔四五百米の高處に及んでゐる、闊葉樹は森林面積の一割六分を占め、シラカンバ・ヤナギ・ヤマハンノキ・ニレ・ナナカマド等がある。

今それ等の面積を一表として左に揭げやう。（單位千町）

針葉樹林	二、一〇四	闊葉樹林	四八四	針闊混淆林 三七二
未立木地	一五〇	ツンドラ	二四二	合計 三、三五三

カラマツは、其の大きさ直徑一尺内外を普通とするが、中には直徑三尺高さ十間に餘るものがある。エゾマツ・トドマツは其の大きなものになると、直徑三尺高さ十八間に及ぶものがある。これ等の木材は、建築材・造船材・電柱・枕木・製紙原料として、其の用途頗る廣く、内地にも盛に供給してゐる。

〔5〕**工業**　樺太の工業は、製材及びパルプ製造の外、稍見るに足るものは、酒類の釀造あるのみである、唯前記の木材及びパルプは、大泊・豐原・落合其の他各地に大小の工場があつて、盛に製造し之を内地に供給してゐて、工産總價額は二千六百萬圓に近く、水産物の一千五百萬圓に倍してゐる。

〔6〕**鑛業**　樺太は石炭の外、石油・金・銀・銅等を藏するが如きも、現に採掘に從事してゐるものは石炭である、樺太廳の調査によれば樺太の石炭鑛區の面積は、二億一千四百萬坪に及び、其の埋炭量は水準上に一億七千萬噸、水準下に三億五千七百萬噸、合計五億二千七百萬噸といふことになつてゐる、近時の計算では十六億噸に上るといはれてゐる、これ等の炭田は川上・内淵・泊居・雨龍・南名好・猿津・皆別・登帆・惠須取・名寄の諸炭田に別れてゐる、しかし現時の採炭量は未だ微々たるものであつて、大正十二年の産額僅に十六萬七千噸に過ぎない、左に主要鑛山の別産額並に經營者を擧げやう。

名稱	所在地	鑛業權者	産額
川上	豐原郡川上村大字三井	三井鑛山株式會社	八五、五五二噸
泊居	泊居郡泊居町大字元澤	樺太工業株式會社	八、五三〇
東白浦	榮濱郡白縫村大字東白浦	樺太炭礦株式會社	一、〇六一
登帆	元泊郡帆寄村大字登帆	登帆炭礦株式會社	一四、五二〇
大榮	泊居郡名寄村大字名寄	樺太工業株式會社	五一、二八二
野田	野田郡野田町大字野田	王子製紙株式會社	六、〇四一

〔7〕**水産業**　本業は現時樺太に於て、林工業と共に二つの最も重要の産業である、漁期には北海道其の他の地方から來て、漁業に從事するものが甚だ多い、樺太の近海が水産に富んでゐること、並に其の種類は、略北海道と同じで、鰊・鮭・鱒・鱈・鰈・蟹・

昆布等が主要なものである。これ等水産物中、鰊は其の産額最も多く、鮭・鱒・鱈と共に海岸到る處之を産する、鰈は中部の東西兩岸及び多來加灣に産し、烏賊及び蟹は西南海岸と、西海岸一帶之を出し、昆布は中部以南の海岸處々、並に海馬島に之を産する。（附圖第十四圖を參照せられよ）

これ等の水産物は、概ね加工されて、食料又は肥料として内外各地に送られる。最近三ヶ年の水産製造物の價額を見ると大正九年には一千二十六萬一千圓、同十年には九百三十八萬圓、同十一年には一千百六十五萬二千圓に上つてゐる、之を僅に十四萬の人口に對して其の人頭割を見るときは、蓋し全國こゝに及ぶものはなからう。

左に之が種類別産額を示さう。（單位千圓）（大正十一年）

鰊搾粕	五、二七八	蟹鑵詰	一、三五一
鹽鱒	六七五	身缺鰊	二八三
明鰊	一九四	鱈粕	三〇
棒鱈	一、二一九		
鹽鮭	二三五		

挿繪　樺太に於ける棒鱈の製造

この繪は樺太の西部で、棒鱈を製造してゐる處である、棒鱈を製造するには、眞鱈を脊から三枚に卸し、顎を殘して頭部及び脊部を去り、之を清水で洗ひ、日光に曝して乾燥すると、多少彎曲した圓い棒狀のものとなる、之を食するには一二時間水に漬け置き、後調味して食膳に上せる、支那人は之を柴魚と稱し、好んで食用に供する。

〔8〕**海豹島**　北知床岬の西南凡そ十浬、同半島の散江港から三十六浬にある。長六町、幅一町、周圍九町の一つの岩礁で、樹木もなく飲料水もないが、年々おっとせいの群集するもの夥しく、之が保護地として名高い。

挿繪　海豹島のおっとせい

おっとせいは牡は體が大きくて、牝の二倍もある、牡は五歳に達すると、長さ凡そ六尺重量二十四五貫にも及ぶ、おっとせいの上陸期は、概ね五月の下旬で　退島期は十一月下旬である、上陸した頭數は年によつて不同であるが、大正七年には九

千六百三十七頭、同八年には一萬一千四百四十三頭、同九年には一萬三千九百六十六頭を數へた。牡は若干の牝と群居して、傾斜乾燥してゐる海濱に、一家族をなしてゐる。分娩期は、六月中旬から八月中旬に至る間で、大正九年には五千四十五頭を分娩し、四百八十頭は死亡した。（千島の條を見られよ）

三、教授上の注意

〔1〕樺太の土人に就いては、北海道のアイヌと連絡を取るがよい。

〔2〕北海道の產業と、樺太の產業と比較をするがよい。

〔3〕附圖第十四圖の參照を忘れてはならない。

〔4〕氣候も北海道と比較するがよい。

〔5〕氣候と農業との關係に注意したい。

〔6〕毛皮の用途・價額をも知らせたい。

第四章　都邑・交通

一、教授の主眼點

樺太の主な都邑の概況、並に交通の狀態を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕**概說**　樺太地方は、其の面積が關東地方又は臺灣地方よりも稍大きいのに、其の人口は僅に十四萬で、稍大きな一都會の人口だけしかない、樺太に未だ大きな都邑もなく、又都會の數の少ないも當然のことである、中でも大泊・豐源・眞岡が主な都邑である。

〔2〕**大泊**　樺太の最も重要の門戸であつて、北海道の稚內・小樽・函館の諸港との間に船舶が往來してゐる、稚內からは僅に九十浬、小樽から二百二十七浬、函館から四百四十五浬へだゝつてゐる、人口一萬二千大泊から起る鐵道は、豐原・落合を經てオホ

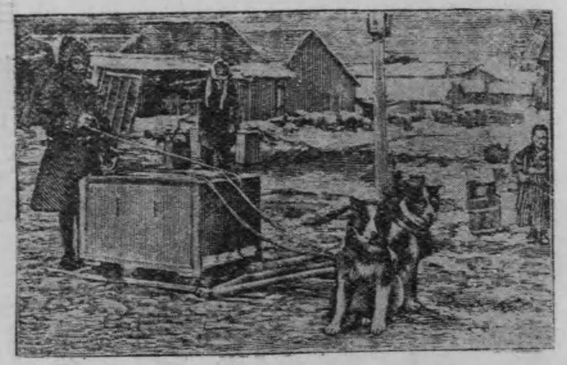
大泊港

ーック海岸の榮濱に達してゐる、此の長さ五十七哩五である。

〔3〕豐原　鈴谷川の上流に近い處に位し、蠣領時代には戸數僅に一百に過ぎない寒村であつたが、樺太廳・豐原支廳・地方裁判所を置かれ、明治三十九年市區設定されてから、漸次に發達し、廣濶端正の市街を見るに至つた、人口八千三百、官幣大社樺太神社が鎮座してゐる。

挿繪　豐原の市街

豐原は北海道の市街と同じく、新開の地であるから、先づ道路を設定し、後に家屋を建設した所である、故に大通は幅十三間もある



犬橇

といふやうに、街路の廣濶端正なことは、繪に見る通りである。電信・電話の線は多いが、人車の往來は未だ頻繁でない、寧ろ閑靜の都邑である。

〔4〕眞岡　本斗と共に西海岸に於ける要港で、船舶の出入多く、又樺太西岸鐵道の中間に位し、水產物の取引が盛である。人口八千三百ある。

樺太西岸の鐵道は南本斗に起り、眞岡を經て野田に至る、其の延長五十八哩四ある。

かく樺太の南部には近年鐵道の敷設を見るやうになつたが、中部から北部には全く鐵道の便なく、一に船舶によつて往來するのである、故に冬季海水結氷の際は、交通殆と杜絶の狀態となるのである。唯この時に於て主要な交通機關は犬

機である。

三、教授上の注意

〔1〕豐原の市街圖を示すがよい。

〔2〕各都邑の特色について考へさせるがよい。

〔3〕樺太神社と札幌神社又臺灣神社と祭神の比較をするがよい。

第三編　臺灣地方

第一章　區域

一、教授の主眼點

〔1〕本章は臺灣の行政區分を知らしめて、臺灣地理を學ぶ上の便宜とするのである

〔2〕臺灣は北回歸線の南北に跨り、其の風土が內地の他の地方と非常に相違して居ること。

二、教材の解說

臺灣地方は、我が國の西南端に位し、其の形は南北に長くして約百里に及び、東西は短くて凡四十里位である。東は太平洋、南はバシー海峽を距てゝ米領フィリピン群島に對し西は東支那海を距てゝ支那に對して居る。其の區域、臺灣島及び附近に散在

してゐる澎湖島、紅頭嶼・火燒島を含み、二千三百三十二方里の面積を有し、行政上之を分つて五州二廳とする。之を統治する臺灣總督府は臺北にある。それらの面積・人口等を掲げると左の通りである。（大正十二年）

州・廳	面積（方里）	人口（千人）	一方里人口	郡又は支廳	市
臺北州	二九六	八〇二	二、七〇七	九	二
新竹州	二九八	六〇二	二、〇二〇	八	—
臺中州	四七九	八五四	一、七八四	一一	一
臺南州	三五二	一、〇〇六	二、八六三	一〇	一
高雄州	三八三	五九七	一、五五九	九	一
臺東廳	二二五	五二	二三三	三	—
花蓮港廳	三〇〇	六二	二〇八	三	—
合計	二、三三二	三、九七六	一、七〇五	五三	五

三、教授上の注意

各州廳の名稱・位置等は地圖によつて、兒童に調べさせ面積・人口等に就いては、唯內地の府縣と比較するだけで止めてよい。

第二章　地　勢

一、教授の主眼點

〔1〕臺灣には其の面積の小さい割合に、高峻の山脈が多いこと。

〔2〕隨つて臺灣の河川は急斜面を流れ、狹い平野を通つて海に入るから、概ね急流で水害が多い、又其の河川は季節に依つて、水量の增減が甚だしいから、この河川を利用するには勢、埤圳（ヒシウ）即ち用水路・水溜を鑿つ必要がある、是れ臺灣に埤圳の多い所以である。

〔3〕臺灣の海岸は、東部は絕壁が多く、西部は概ね砂濱で出入がない、西南部の高雄も北部の基隆も、築港に依つて便利を得てゐるのである。

二　教材の解說

〔1〕山脈　臺灣島は、南北の長は約百里に達するが、東西の幅は四十里に止る、而して中部以東は概ね山岳に掩はれて、全島の約三分の二に及び、西部一帶は平野である。

臺灣島には、南北に並走してゐる二三條の山脈があるが、臺灣山脈が殊に著しいものである。此の山脈中には三千米を超える山が少なくない、即ち新高山（三九五〇米）を始とし、新高山以北には、大霸尖山（三、五五五米）・次高山（三、九三一米）・南湖大山（三、七九七米）・奇萊主山（三、五四四米）・合歡山（三、三九四）・丹大山（三、三七一米）・巒大山（三、四六五米）・新高山以南には、秀枯巒山（三、八三三米）・關山（三、六六七米）・卑南主山（三、三〇五米）等がある。

新高山は新高群山の第一峰で、我が國最高の山岳である。主として古生層の粘板岩かる成る。古來支那人は玉山、西洋人はモリソン山と呼び來つたのを、明治三十六年六月、明治天皇が新に御命名されたのである、此の群山の南に發源するものは、下淡水溪となり、北に赴くものは濁水溪に入る。植物は垂直的に其の林相を異にし、平地より約四百五十米までは熱帶植物、夫より約二千米までは暖帶林、更に三千米までは溫帶植物、三千米以上は寒暖植物が生育してゐる。有名なる阿里山森林は、新高山の西腹にある溫帶林である。

挿畫　新高山

新高山は臺中・高雄二州の境上に屹立してゐる群山の稱で、高さ三千九百五十米、富士山より高いこと百七十二米、本邦第一の高山である。此の繪は阿里山の作業所から、東方に阿里山を望んだもので、畫の中央の高點は群山中の主峰である、畫の左端に見ゆる樹木は扁柏（ひのき）である。

〔2〕平野　西部には南北に連つてゐる海岸平野がある。この平野は多くは東部山地から來る諸川の築いた、沖積平野であつて、地味は概して肥沃で、米・甘蔗・甘藷等諸種の熱帶農產物の、多く產する所である。隨つて戶口も稠密で交通も開け、臺灣の住

民の約九割はこゝに住んでゐる。

（3）海岸　臺灣島の海岸は、之を西部・北部・東部に分つことが出來る、西部海岸は概ね遠淺の砂濱であつて、出入が少く、滿潮時に乘じてジャンクが僅に出入する位で大船の出入には適しない。北部海岸は海岸線極めて短く、僅に基隆灣があるのみ。東部海岸は多くは絶壁で、船舶の出入碇泊には亦極めて困難である、依て西部の産業地の門戸として、高雄と、内地との咽喉に當る基隆とに築港して、船舶の繫留に便ならしめた。

基隆灣は波荒く且つ淺くて、不便の港灣であつたが、こゝに二千二百萬圓を投じて大築港をなしたから、今は極めて安全の良港となつて、如何なる大船でも其の港灣に横着が出來る、又築港完成の日には、一ヶ年百六十萬噸の荷役が出來るやうになる。

又高雄は米・砂糖の産地を控へ、重要の位置にあるから、長さ三里幅八百間といふ高雄灣（實は潟）の口を利用し、一千七百萬圓を投じて、水陸の設備を完全にし、一ヶ年九十萬噸の貨物を吐呑し得るやうに築港した。

挿繪　高雄港

高雄港（舊名打狗）は、長さ三里幅八百間に及ぶ高雄灣（潟湖）の口に臨み、灣口は小丘に依て圍まれ、其の幅僅に三百五十尺、又灣内は水深大部分干潮面下三尺に過ぎない上、港の内外に岩礁や淺瀨があつて、戎克（ジャンク）・小汽船すら入港が困難であつたから、明治四十一年から築港工事が始まつて、大正十四年に完成の豫定である、既に港内を浚渫して得た干潮面下水深十八尺乃至三十尺の面積、約三十萬坪、港口の岩礁も除去され、港内に十二個の繫船浮標四百八十間の岸壁があり、各種の建物、起重機等も備へられ、八千噸までの船は岸壁に六隻、繫船浮標に六隻を繫留することが出來る、かくして高雄港が面目を一新し、大に活氣を呈するに至つた所を示したものである。

〔3〕河川　臺灣島の幅は、最も廣い處でも、四十里内外しかない、而して其の河川

は、中央より稍東に偏してゐる分水界から發源して、概ね東西に流れるのであるから長い河は一つもない、三十九里の濁水溪、三十六里の下淡水溪を主なものとし、其の他の大甲溪・淡水溪・卑南溪・曾文溪・大安溪の如きは、僅に二十里に餘るのみである。しかして其の水源が何れも著しく高いから、山間にあつては岩角に激する急湍となつて、奔馳矢の如く、一たび平野に出るや、河幅徒らに大きく、數多の分流を生じ、大雨一たび至ると、忽ち氾濫の災を與へ、平時は水涸れて灌漑の水を得るに苦しむ、これ古來臺灣に埤圳の多く出來た所以である、既に埤圳によつて、灌漑されてゐる耕地の面積を擧げて見ると、官設に一萬一千四百八十八甲、公共に二十二萬四千二百五十甲、認定外埤圳に九萬六千三百十甲、合計三十二萬五百六十甲で、實に臺灣の耕作地の四割は、この埤圳によつて灌漑されてゐるのである。（一甲は〇・九七八町に當る）

挿　繪　灌漑の一方法

この繪は臺灣特有の龍骨車を踏んで、水溜より水を揭げ、之を灌漑用に供する樣である。龍骨車は、臺灣一般に使用される灌漑用具である。

三、教授上の注意

〔1〕臺灣山脈の位置・高度については、地圖について兒童に觀察させるがよい。

〔2〕平低の砂濱や、絶壁の海岸も、兒童は地圖に依つて觀察するすることが出來る。

〔3〕適當な指導に依つて斷面圖を描かせ、地勢を確實に理解させたい。

〔4〕一二の河川の長さをコンパスで測らせ、又は分流の多い樣を見て、氾濫を想像させるがよい、更に推理して埤圳の發達に及ぼしたい。

第三章　氣　候

一、教授の主眼

臺灣は我國で特殊の氣候を有つてゐるから、之を概說し、且つ産業と密接の關係あることを知らせる要がある。

二、教材の解說

臺灣は我が國の最も西南部に位し、北回歸線に跨つてゐるから、氣候の溫暖なこと國內之に比すべき處がない、近海に暖流が流れてゐるといふことは、臺灣の溫暖であるといふ理由には餘りならない。

臺灣の溫度は北部と南部とで、多少の違はあるけれども、北回歸線の通過してゐる嘉義の附近を境として、其の以南が劃然と溫度が高いといふわけでは勿論ない、北から南に赴くに從つて、次第に溫度が高くなるので、恒春の如きは最も溫暖で、夏冬の差が極めて小さく、年中春の如くである、これ此の地が恒春の名を得た所以である。したがつて臺灣には、內地に見るが如き、春夏秋冬の區別が認められない。南部の高雄附近では、一月の寒時に稻を植え、勞働者は日中裸體で、船の荷役に從事するといふ有樣である。臺灣の冬が如何に溫暖であるかは、此の一事によつても之を知ることが出來る。又冬季の溫暖な割合に、夏季の溫度は高くない、最暖月の七月でも、東京より二三度高いのみである。

左に臺北と臺南との各月の溫度を示さう。（採氏）

地名＼月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	年
臺北	15.2	14.6	16.9	20.8	23.7	26.8	28.1	27.8	26.2	23.1	19.7	16.7	21.7
臺南	16.3	16.7	19.4	23.4	25.8	27.3	27.7	27.4	26.9	24.8	21.9	13.4	23.0

故に雪は高山の頂には見るけれども、平地に之を見ることは極めて稀である。又結氷は明治三十四年の二月に、臺北に之を見たことがあるばかりである。

次に雨量について見るに、夏は南風の影響を受けて、各地に多量の降雨を見るが、冬季の降雨は專ら東北風の齎らすもので、其の分布が甚だ不平均である、即ち基隆附近には降雨が連日に亘つて多いが、南に赴くに從つて次第に減じ、臺中附近から南部一帶は、殆ど無雨の狀態に變するのである。

次に臺北・臺南の每月の雨量を揭げよう。（單位粍）

地名＼月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
臺北	88	123	132	135	242	269	228	266	245	133	75	88
臺南	29	27	47	63	181	335	376	432	169	38	19	12

前表に就て仔細に觀察するときは、如何に臺灣に於ける雨量が季節に從つて異るかゞ知られる。

風は夏季の南風、冬季の東北風が主風であるが、南風は概して風力極めて微弱である、臺灣はいはゆる颱風と稱する熱帶的暴風の進路に當り、殆ど年々之が襲來を見ざることなく、其の猛烈なものに至つては、田園人畜に及ぼす損害少なくない。暴風の襲來は凡そ年二回の平均であつて、年によつては全く之が襲來を見ないこともあるが甚しきに至つては、年七八回に及ぶこともあつて、作物特に甘蔗に甚大の損害を與へることがある。

要するに巨大な樟樹（くすのき）・見事に氣根を垂れたガジマルや林投、亭々たる檳榔樹（びんらうじゅ）の林・バナヽ・バインアップル等の、四時生々繁茂するを見ると、如何に臺灣が四時溫暖であるかゞ想像される。

樟樹は東洋の熱帶區に產する植物で、臺灣では主として中部以南の暖地に生育し、木質堅硬木理緻密で、淡黃帶を帶び、高尙な器具材となり、殊に老木になると、珠紋・如輪目と稱する紋樣の、甚しく錯雜したものがある。其の他は樟樹は艦材・建築材にも使用される、樟腦が樟樹から製出されることは、世人の熟知する所である。

ガジマル即ち榕樹は、桑科の植物で、臺灣琉球には到る處に生育してゐる、枝梢から多くの氣根を發生し、並木又は防風林として、學校・停車場・市街・村落等に多く種植されてゐる、材は盆・皿・鉢・箱其の他種々の器具を造るに用ゐられる。

檳榔樹はアジヤの東南部に生育し、樹皮から纖維を取り、幹は一種の建築材となる。青果は土人の好んで用ゐる興奮性の咀嚼物となる。

三、教授上の注意

〔1〕グラフを示して、臺灣の氣候を正當に理解させたいものである、今日尙臺灣を瘴熱の地と爲すが如きは、誤れるの甚だしきものである。

〔2〕自己の附近と臺灣との氣候を比較させたい。

〔3〕成るべく具體的に說明するがよい。

第四章　產　業

一、教授の主眼點

〔1〕臺灣が我が國重要の熱帶產物の產地であること。

〔2〕臺灣が我が領地となつてから、各種の產業が長足の發達を成したこと。

〔3〕臺灣と內地との經濟的關係を知らせること。

二、教材の解說

〔1〕家　畜

（イ）概說　臺灣では農業や運搬に、家畜を使用することが盛であり、又肉食の風が盛であるから、家畜の飼養は一般に廣く行はれてゐる、中にも水牛・黃牛及び豚を主なものとし、其の他に雜種牛・洋牛もあるが、これ等は主に搾乳用として、飼養されてゐるのである。

（ロ）水牛　水牛は最も主要の家畜である、性質溫順・體格肥大・力强く、粗食に堪へ、耕作上缺くべからざるものであるから、到る處に飼養されてゐる、大正十一年の頭數は三〇一千頭である。

水牛は高さ四尺餘、角は頭の後から出てゐて、弓形に彎曲してゐる、好んで水中に入り、泥土を體に塗つて、蟲にさゝれるのを防ぐ、肉味は普通の牛に劣るけれども、其の脂は優良である、又皮は大きくて丈夫である、角は頗る大きく、其の斷面は基部に於て略々四角形をなし、花挿・印材等を作ることが出來る、力役用としては普通の牛よりも優り、臺灣では最も重要の家畜である、而して臺灣に於ける牛の七割三分はこ

の水牛である。

（八）黃牛　黃牛は體軀大小不同であるが、一般に水牛に比して小さい、性質柔順力强く、動作が敏活であるから、概して運搬用に使用される、臺中・臺南・高雄の各州は之が主要なる飼養地方である。其の頭數は大正十一年に十五萬五千頭で、水牛の半にも及ばない。

（二）豚　豚肉は臺灣人の主要の副食物であつて、需要が頗る多い、されば農家の副業として、每戸必ず數頭の飼養を見、全島に亙つて飼養されてゐる。大正十一年の飼養頭數は百二十六萬七千頭で、內地の頭數の三倍餘に當つてゐる、又同年に屠殺した豚の頭數は、八十五萬六千頭であるから。若し內地の豚を臺灣の食用に供したら、僅に半年を支へるに過ぎなからう。

挿繪　水牛を使つて耕作をしてゐる所

水田が遠く連つて見える、近景には處々に水牛を使用して耕作を行つてゐる、この光景は臺灣平野の水田に到る處に見る所であつて、水牛の形體性質、及び其の利用の一班が、之によつて理解される、各農夫は水牛を二頭つゝ使用して、一個の鋤を牽かせてゐる。

〔2〕農業・工業

（イ）耕地の發達　臺灣は天與の農業地で、住民の六割五分は之に從事し、最重要の產業であるに係はらず、支那時代には農政がよく行はれないで、土地は荒蕪に委し收穫は少かつた、我が領土となつてから、總督府は土地の開墾耕種の奬勵に大に意を用ゐたから、爾來著しく耕地收穫を增加するに至つた、左に耕地の發達を示さう。（一甲は內地の〇・九七八町に當る）

	明治三十二年	同四十年	大正十二年
田	二一二千甲	三二九千甲	三六八千甲
畑	一五一	三四六	三九〇
計	三六三	六七五	七五八

之によつて見ると、耕地の面積、領臺當時に比べて、二倍以上になつてゐることが解る。

主要農產物では、米・甘蔗・甘藷・茶・落花生等の外バナヽ・パイナップル等である、これ等の農產物も、年と共に其の產額を著しく增加することは勿論である。

（ロ）米　臺灣は氣候溫暖多雨、稻の栽培に適し、年二回の米の收穫がある、一期作二期作合せて約五百萬石、詳言すれば、大正十一年には五百四十四萬六千石の收穫があつた、而して二期作の收穫は、一期作のそれに比して稍少いけれど、大差はない、世には二期作は一期作の刈り株に發芽したものに、實るものと考ふるものがあるが、之は大なる誤解で、二期作も一期作と同樣に新に、苗を植え付けるのである、而して米の主產地は西南部の諸州である。

從來臺灣米は、粒形一體に圓長で、脂肪分・粘着力共に少なく、乾燥不十分であつた爲め、風味內地米に比して劣る缺點があつたが、總督府が極力之が改良を圖つた結果今や風味內地米と大差なきやうになつた、したがつて內地に積出される臺灣米も年々少くない。然れども一甲の面積から收穫する米は、未だ一石に達せず、尙耕種其の他諸般の改良をなして、收穫を增加すべき餘地ありといふべきである。

（ハ）甘蔗及び砂糖　甘蔗栽培は古くから行はれたが、在來種は品質劣惡で、收穫少なく、又耕作地も少なく、耕作法も極めて幼稚であつた、從つて重要產業の位置を占めるに至らなかつた、明治三十六年に至り臨時臺灣糖務局を設置し、布哇からローズバンブー・ラハイナ等の優良品を輸入し、以て品種の更新、耕作法の改善を圖つたから在來種は殆ど跡を絕ち、殆ど全部輸入種に更新された。爾來布哇・爪哇等から、絕えず優良種を輸入し、一面臺灣に於ても、優良種の養成に腐心し、尙耕作法の進步を促す等、鋭意糖業の奬勵に努めた結果、異常の發展をなし、且つ近年天候の順調と相俟つて、糖業をして益々發展の域に向はしめた。されば澎湖島を除く外、全島各地に栽培されてゐるが、就中臺中・臺南・高雄の諸州に著しく、近年東部の花蓮港廳下にも次第

に盛況を呈しつゝある。

甘蔗の栽培は、臺灣の產業中、最顯著な發達を遂げたもので、植付面積明治三十二年には、三萬二千甲に過ぎなかつたものが、大正十二年には十一萬七千甲となり、甘蔗の收穫高も、三億四千二百萬斤から、六十六億三千二百萬斤に增加した、これにつれて製糖高も著しく增加してゐる。

挿繪　さたうきび畑

臺灣に於ける甘蔗畑の有樣を示したものである、甘蔗の改良種は生育よろしく、遠く之を望むと小さな竹林のやうである。甘蔗の長さは、人物の身長に比較し、一丈以上にも及んでゐるのが認められる、中には穗を出して、其狀蜀黍に似たのもある。

製糖法には、舊式・改良・新式等の諸法がある。

舊式即ち在來糖廓は、二輪石車若しくは三輪鐵車を、主に水牛又は黃牛數頭にて廻轉せしめ、甘蔗を壓搾し、得たる糖汁を六箇乃至十箇の平鍋にて煮詰め、之を打糖盤に汲み揚げ、攪拌乾燥せしめて、砂糖となすものをいふ、其の作業能力は、石車糖廓では一晝夜に一萬六千斤內外、鐵車糖廓は三萬斤內外、其の一期間に於ける製糖高は前者は平均七八百擔、後者は二千六百擔位なるを普通とす、此の種の糖部數は、領臺當時千有餘であつたが、次等に著しく減少する。

改良糖廓は、其の壓搾裝置を、蒸汽機關にて廻轉する橫置三、六、九轉子壓搾裝置に改め、在來糖廓と同樣の製糖法で、砂糖を製造するものをいふ、其の製造能力は、最小四十噸より最大三百噸に至る、其の數は大正九年期には二十四ヶ所、能力二千百九十噸である。

新式製糖場は、完全な壓搾裝置と、壓碎機とを有する九乃至十二轉子壓搾機、清淨蒸發・結晶分蜜等の諸裝置を有し、完全且つ多量に甘蔗を壓搾して、大量の砂糖を製造するものである、新式製造場の製造能力は、最少三百噸より三千噸に至る、明治三十

五年には之が僅に一ヶ所三百噸であつたが、大正十三年期には四十四ヶ工場作業能力三萬三千三百五十九噸を有してゐる。

之から製出される砂糖は主として分蜜糖卽ち粗糖である、次に製糖の方法を略說しよう。壓搾機で搾出された糖汁は貯汁箱で石灰乳を混和した上、加熱機で攝氏百五度內外に熱し、それから沈澱槽に送り、化學的作用に依つて不純物を除いて、淸澄液とする。次いで効用罐內で、水分を蒸發して濃厚液とし、結晶罐に移し、更に蒸發させて濃厚にして、結晶を生ぜしめ、其の後分蜜機に依つて、砂糖と糖蜜とを分離させて粗糖を得るのである。

臺灣の製糖高は、颱風の來否と密接の關係があるから、產額年々多少の差あるを免れない、最近三ヶ年の砂糖の產額は左の通りである。

大正九年期	同　十年期	同十三年期
三七二、二七九千斤	四二一、二二四千斤	七五三、六八三千斤

製糖の種類は、從來は概ね粗糖であつたが、今では耕地白糖といつて、甘蔗汁から直に白糖を製造する四、五の工場がある。尙近來氷糖を製造する工場も出來た。

臺灣に於ける製糖高の九割餘は、新式製糖の產出する所であるが、主な新式製糖會社は、臺灣製糖・大日本製糖・鹽水港製糖・東洋製糖・臺南製糖・明治製糖・帝國製糖・新高製糖の諸株式會社である。

臺灣に產する砂糖の大部分は、主に內地に仕向けられて、直接の需要を充し、或は精製糖の原料に供せられる、砂糖の輸移出高は左の通りである。（單位千圓）

	大正八年	同　九年	同　十年	同十一年	同十二年
內地へ	七九、一一二	一三五、二二四	八四、七〇九	八四、四七三	一一一、八〇八
外國へ	七、五四二	六、七一九	二、〇六八	二、七四九	二、四〇〇
計	八六、六五四	一四一、九四三	八六、七七七	八七、二二二	一一四、二〇八

大正十二年の砂糖の外國への輸出高は、內地へ移入高の約五十分の一に當るのみである。

挿繪　製糖工場

此の繪は高雄州屏東にある臺灣製糖株式會社の屏東工場である、明治四十一年十二月の設立にかゝり、鐵骨亞鉛板葺三階建で、建坪が約二千坪、規模宏大設備が完全してゐて、製造能力は三千噸（一晝夜に四千五百擔（ピコル））の砂糖を製出する、臺灣第一の製糖工場で、又世界有數のものである。

（二）茶　臺灣に於ける茶樹の栽培は、支那移民渡臺後に興つたものであらう、現今之が栽培は、主として臺北新竹の二州に行はれ、年に十數回の摘葉が出來る。茶樹の種類には種々あるが、烏龍と大葉烏龍とが最も優良種で、茶園全面積の六割は之が占めてゐる、大正十二年に於ける茶園面積は、四萬三千八百三十甲に達し、之から二千百二十六萬四千斤、價額六百二十九萬二千圓の製茶を得てゐる。

製茶は主として烏龍茶と包種茶の二種であるが、烏龍茶は其の製法二段に分たれる、第一は生茶即ち粗茶を製するので、先づ茶葉を摘んで萎凋醱酵させ、幼芽並に第二第三葉の周邊が紅色を帶びる頃を見計つて、釜の中に入れ、炒熬を行つて醱酵を止め、更に揉捻を施した後で乾燥させる。第二段は仲買の手を經て、直接又は間接に、再製家に販賣された生茶が、再製されるのである。再製法は生茶を筋分けして粉分を去り棟茶といふ工程に依つて、番茶と莖茶とを除いて、再び乾燥させるのである、再製した烏龍茶は十五斤又は三十斤の茶箱に收め、アンペラで包裝して輸出するのである。

包種茶は明治十四年の頃、支那泉州同安縣の茶商、源隆號の吳福老渡臺して、之を製造したるに始まる、包種茶の再製法は、略烏龍茶と同一の工程に依つて、棟茶を施した後、芳香を有する花を混淆して、堆積すること十五時間乃至二十時間、花香が茶に移つたとき之を取り出して、棟花を行つて花を除き、直ちに乾燥させ、或は花香を附けないものと、更に混合して乾燥させる、之を四十匁の紙包にして茶箱に收め、其の上に竹蔑を施し、主に瓜哇に輸出する、包種茶製造に使用する香花植物は、臺北地方に產する黃枝・茉莉・秀英の三種である。

製茶は臺灣の重要貿易品の一で、最近三ヶ年の輸移出は左の通りである。

	大正十年	同十一年	同十二年
輸出	七、九四五千圓	九、五五二千圓	一〇、〇〇八千圓
移出	三五八	一四〇	二一六
計	八、三〇三	九、六九二	一〇、二二四

（ホ）甘藷　米に次ぐ重要の食用農產物である上、臺灣の氣候がその栽培に適してゐるから、全島到る處に四時栽培されてゐる。其の品種は頗る多いが、在來種として鐵線藤・趙州・烏葉等廣く栽培され、近年白和蘭・元地ナンシホール等の新優良種が、輸移入栽培されて來た、最も主な栽培地は臺中・高雄の二州である、直接食料とする外、切干・酒精・澱粉の製造にも用ゐられる、甘藷の栽培收穫は近年次第に盛大となり、明治三十二年には四萬甲の作付地から、六千七百萬貫の收穫があつたが、大正十二年には十二萬六千甲、二億七千三百萬貫に增加するに至つた。

（ヘ）落花生　落花生は普通食料となす外、製油・製藥・製菓の原料にも供せられ、これ亦全島到る處に栽培されるが、其の主產地は臺南・高雄・臺中の三州である。大正十二年には二萬五千甲の作付地から、三十五萬二千石を收穫してゐる、その需要地は主として臺灣の內である。

（ト）バナナ　臺灣では芎蕉といふ、全島到る處に栽培されるが、特に臺中・臺南・臺北の三州に盛である。內地到る處の果物店に見るバナヽは、皆臺灣から移入したものであることに思ひ到らば、其の栽培の盛なことが想像される。大正十二年の收穫高一億八千八百萬斤に達し、同年の移出價額は八百二十八萬圓に達してゐる。

（チ）パインアップル（鳳梨）　パインアップルも亦臺灣の風土に適し、全島遍く栽培されるが、臺南・臺中・臺北の各州が主要の產地である、大正十二年には一千七百甲の作付地より一千二百萬箇を收穫した、島內で生食用に供せられる外、生果並に罐詰として輸移出される、大正十二年の輸移出高は、罐詰で九十二萬五千圓に及んでゐる。

〔3〕林業・工業

（イ）森林と製材　臺灣山脈中には、各種の良材に富んだ森林が多く、總面積の約半に及んでゐる。現在稍自然林の狀を呈する處を見るに、五六千尺以上の山地で、此の地帶の森林中、特に著しいものを擧げて見ると、

南部では、太武山から恒春半島の脊梁を成せる中央山脈一帶、

臺灣の檜榁樹林

中部西面では阿里山から新高山の西北面に連る針葉樹及び闊葉樹の森林、これに對する巒大山の森林、八仙山の森林、大雪山の森林等

北部では鹿場大山の森林、

東面ではタビラ溪、馬太鞍溪、アリバシ溪、チヤカン溪等諸流域の森林、棲蘭山の扁柏林、南湖大山の森林、

現に伐木事業を行つてゐる所は、新高山の西腹に當る阿里山、豐原驛の東南十二里にある八仙山、宜蘭濁水溪の上流森林である。

阿里山は縱貫鐵道の主要驛である嘉義驛の東方四十餘哩、東西三里南北八里、面積約一萬千百町歩、海拔二千八百尺から、八千七百尺の間に介在してゐる、而して六千五百尺以下を暖帶林、それ以上を溫帶林とす、六千尺以上には紅檜を混じ、七千尺位から紅檜・扁柏の純林となり、八千尺に至り栂松を混ずる、眞に鬱蒼とした晝尙暗い一團の森林である、星霜を經ること幾千年、斧鉞の入らなかつた眞に曠古の原生林で、長幹美材に富んでゐること、本邦中之に比するものがない、阿里山蕃の神木と稱するものゝ如きは、直徑二十一尺三千年の老木であるといふ。

阿里山森林伐木の經營は、明治三十二年始めて實施踏査をなし、伐木起業の必要を認めたが、財政の餘力を得ず、遂に同三十九年二月、大阪の合名會社藤田組に對し、

其の經營を許可したのに創まる。藤田組は明治三十九年七月以來鐵道工事、森林調査等に着手したが、明治四十一年一月に至り、事業を中止したから、總督府は藤田組に對し、補償金百二十萬圓を支拂ひ、其の事業を繼承した、爾來種々の故障や天災に遭遇したが、大正四年度に入つて諸般の設備全く整ひ、漸く營業の常態に到達して、舊來の面目を一新するやうになつた。

阿里山の森林施業區面積、並に其の蓄積を見るに、針葉樹林一千八百二十九町、闊葉樹林四千三百八十一町、闊葉樹林四千三百六町、草生地一千五百八十四町、合計一萬一千一百町歩である。又樹木の種類によりて、之を分つときは左の如し。

樹種		材積
針葉樹	扁柏（ひのき）	四、一三三千石
	紅檜（べに ひ）	五、二二八五
	亞杉	二二三
	姫松	二八六
	樅子	六八〇
計		一〇、六〇六

樹種		材積
闊葉樹	樫（かし）	三、二五二千石
	柯（しひ）	三、三六四
	樟（くす）	一六七九
	赤楊	四、三八〇
	雜木	二一、八四九
計		

阿里山の木材を搬出する爲、阿里山鐵道四十餘哩が敷設された。凡て二呎六吋の狹軌で、線路は大概二十分の一の急傾斜をなし、甚だしく旋回してゐる。木材を搬送するには、米國製架空式鐵索集材機に依つて、半徑一千二百尺以内の地にあるものを鐵道附近に集めて、一輛平均二十四石積の割合を以て貨車に積込み、貨車八輛を一列車として、一日六列車の豫定を以て運轉して、嘉義貯木場に搬出するのである。貯木場の面積は十六萬餘坪ある。

嘉義の製材工場は貯木場構内にある。米國西海岸各州の製材業を實地調査して、長大材の利用を參酌したもので、建築は中央一部は三階、其の他は全部二階造、鐵筋混凝土建で、動力として米國製バーソンス八百キロワット高壓凝縮回旋汽機、同上直結交流發電機、同上用勵磁器、五十キロワット汽機直結發電機各一臺を用ひ、汽罐は英國製水管式傳熱面積二千六百九十平方呎のものである。又製材機械は九呎帶鋸機、其の他二十餘臺あつて、製材は凡べて自働的に行はれ、規模宏大、設備斬

新の點に於ては本邦無比と云はれる。

阿里山材の近年販賣高左の如し。

	材積	價額
大正七年	一〇六、六九九石	一、七二四千圓
同八年	一六二、二一七	二、三三七

挿繪　阿里山のひのき林

此の繪は阿里山の檜林を見せたものである、本文を參照せられたい。檜＝扁柏は材質が緻密で、淡紅黄白色、芳香を有し、內地產の檜より黄味が稍强い。又紅檜は本島の特有樹木で、檜より淡褐紅色を帶び、質稍輕く一種の芳香を有つてゐる。此の二種共に長大なものが多く、普通は直徑二三尺であるが、中には阿里山蕃の神木とするものゝ如き、實に直徑二十一尺、横斷面が約十坪、推定年齡三千年に及んでゐるものがある。されば阿里山材は橿原神宮・桃山御陵・明治神宮等の御用材ともされてゐる、明治神宮の大鳥居の柱とされたものは、樹齡一千九十五年と一千九十三年とを有つてゐる。

八仙山　八仙山は臺灣山脈の中部、合歡山から西に分岐してる支脈中の、最高峰たる白姑大山の西方に連つてゐる一團の森林で、北港溪及び大甲溪に跨つてゐる、現在の作業區域は東西四里南北三里、面積約一萬四千町歩に及ぶ、縱貫鐵道豐原驛から、大甲溪に沿ひ溯ること、約十二里の地點にある。大正三年六月實地調査を行ひ、作業の計畫をなし、大正四年七月事業に着手し、爾來伐木運材の作業著く進行し來たつた。

八仙山の事業は阿里山の最も進歩的なのに反して、純然たる舊式である、補助作業として二哩半の手押軌道に依つて、運材をなすものがある外は、修羅又は木馬によつて、專ら天然の地利と人力とに依つて、作業を遂行しつゝある、林業夫は內地の奥羽・木曾・紀和並に九州方面から募集し、其の轉材は木曾地方に於ける修羅及び棧手を用ひ又運材は土佐及び紀和地方に於ける木馬及び管流し法を取つてゐるが、一般に山勢急峻、其の轉材距離の如きも非常に長く、且つ轉下木材は其の重量の大なること、內地

には其の比を見ない處であるから、棧手の構造留場其の他木材制動の方法及び、之が勾配曲線減殺等の手段については、種々の工夫を凝らした所が多く、八仙式ともいふべく、丸太材は前述の如く管流をなし、東勢角街の對岸土牛庄の土牛貯木場に搬出し來り、輕便鐵道によつて、豐原驛に搬出するのである。

八仙山の事業區の面積及び、蓄材を擧げれば左の通りである。

種別	面積	材積
針葉樹林	二九五町	一、〇六七千石
針濶混淆林	二、一九〇	二、八九一
濶葉林中に針葉樹の混ずるもの	一、六六七	一、五六二
濶葉樹林	七、八六八	四、七二一
草生地	二、七四三	―
計	一四、七三二	一〇、二四〇

左に樹種別の蓄材高を示さう。

樹種	材積	樹種	材積
針葉樹 扁柏・紅檜	二、三九五千石	松	六六四
針葉樹 檜	一、四一七	計	四、四七六千石
濶葉樹	五、七六四		
總計	一〇、二四〇		

八仙山木材の近年の賣拂高を左に掲げる。

年度	材積	價額
大正七年	一八、二三〇石	一一五、七七九圓
同　八年	七、六五一	九三、六一三
同　九年	一七、五七四	三〇二、八九四
同　十年	九、二一二	一八一、四四五

宜蘭濁水溪の森林　此の森林は林相頗る美しく、其の蓄積亦豐富なるに係はらず、臺灣最兇の蕃族溪頭蕃や、其の他の蕃族跳梁して、他人のこの流域に入るを許さなかつた、大正三年度討蕃の大業成り、附近の諸蕃も亦歸順し、こゝに始めて其の眞相が

知れたから、大正三年十月之が調査を行ひ、林値の大要を知り、事業の實行を企圖するに至つた、其の作業區域は、濁水溪の兩岸に沿へる一帶の森林で、大覇尖山・次高山南湖大山に包まれた一帶と、其の東南南澳蕃の據れる地方、並に西に延びて、淡水河の上流ガオガン蕃の據れる一帶を合はせ、長さは西南から東北に凡そ十三里、幅は平均五里に及び、面積約六萬三千町歩、阿里山林地面積の六倍に近い。

林相は山麓低地の熱帶林の上部から、海拔一萬二千四百尺の南湖大山の寒帶林に至るまで、全山斧鉞の跡なく、其の中無立木地の如きは、僅に一小部分である、而して里庄に近い低丘地から、蓊鬱とした森林が延びて、山巓に及んでゐる偉觀は、臺灣の森林中實に稀に見る所のものである。

この森林の事業は、大正四年十一月、始めて之に着手したのであるが、今や伐木・運材・貯木等に關する設備整ひ、製作丸太材は、總て宜蘭街を距る約一里なる員山貯木場に搬出してゐる、其の伐木運材の方法は、八仙山と異ならないが、八仙山では手押臺車と木馬とにより運材するが、こゝでは五哩七分の軌道運材をなす外、修羅棧手を以て轉材し、堰出をなし、夫れから管流をなし、員山貯木場へ流送するのである。杣夫及び運材夫は、八仙山と同じく內地から募集したものであるが、丸太材運搬に土蕃を使役しつゝあるは、他と異なる點てある。

この森林の面積及び蓄材の高を、表示すれば左の通りである。

種別	面積（町）	蓄材（千石）
針葉樹林	一二、七七〇	二一、三三六
針濶混淆林	一二、〇八〇	
濶葉樹林	三三、三五〇	二八、四〇四
草生地	二、一三〇	—
除地	四一〇	—
計	六〇、七四〇	四九、七四〇

其の材積は阿里山に比し、實に二倍餘の多きに達してゐる。

次に樹種別材積を示さう。

種別	蓄材	種別	蓄材
針葉樹（扁柏・檜・大松・紅檜）	一一、七三五千石	樺	一、〇六七千石
濶葉樹	八、三三四	計	二一、三三六
合計	二八、四〇四		
	四九、七四〇		

木材賣拂高近年の分を掲げれば左の通りである。

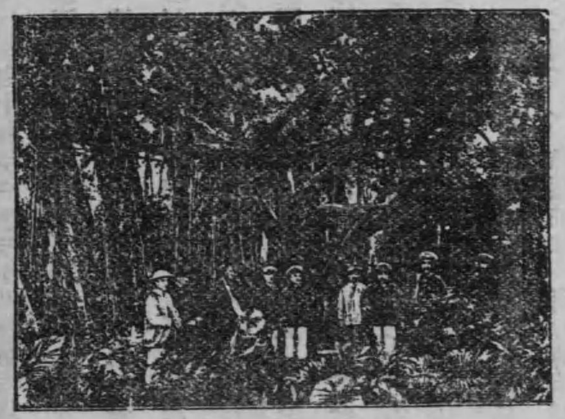
年度	材積	價額
大正七年	二一、八六五石	一七九、一八八圓
同八年	四一、四四五	四六〇、九二三
同九年	三七、三四〇	五七七、九三二
同十年	三一、〇四七	四七七、九六一

（ロ）樟腦　樟腦は內地の九州・四國、又は支那からも產するが、それ等は臺灣產の半分にも及ばない、實に世界に需要される樟腦の大半は、臺灣から產するのである、樟腦の用途は往時は藥用又防蟲用としてのみ、世に知られ、其の需要も盛でなかつたが千八百六十九年セルロイドの發明以來、工業用として使用されるやうになり、需要が急速に增加した。

樟腦は明治三十六年六月、內地臺灣共通の專賣法施行以來、政府の專賣品となり、之が製造は一時總督府自ら經營したこともあつたが、現今では全部民營とし、相當の資產と經驗とを有するものゝ出願に對して、之を許可し、一定の官有山林を限つて、製腦區域となし、其の原料並に薪材・器具用材は、一定の價額を以て拂下げ、製造した樟腦及び樟腦油は、亦一定の賠償金を交付して之を專賣局に收納したのである、これ等製腦業者は全島に亘つて二十三名あつたが、大正八年四月に至り、全部合同して、臺灣製腦株式會社を設立して、其の事業を繼承した。

專賣局が收納した樟腦は、一部は之を專賣局工場に於て、一部は之を神戸支局に送つて調理し、樟腦油は一部は專賣局工場に於て、一部は神戸に於ける民間斯業者に賣り渡し、以て樟腦を再製し、再製樟腦は全部之を專賣局に收納す、又再製樟腦製造の

際生ずるものに、赤油・白油・藍色油がある、其の用途は、赤油は主として香料・除臭劑・驅蟲劑として、多く外國に輸出される、白油は防臭劑・驅蟲劑・溶解・石鹼配合劑として、多く內地で消費され、藍色油は殆ど全部デシンフエクトールの原料として使用される。



樟樹

樟腦の伐採は、次第に其の歩を進め、製腦原料の缺乏を來たすから、天然樟樹の後繼を作る必要上、夙に樟樹の造林を計畫せられ、既に明治三十三年度以降之を實施しつゝあつて、大正十三年末には二萬町歩の造林地を得る豫定であつたが、此の計畫では世界の需要に應ずることが出來ないから、途中計畫を變更して、大正十八年度末に、五萬五千町歩の造林地を得ることにした、今後は伐採と植栽とを併行し、輸伐作業により、永遠に原料の保續をなす方針である。

最近數年間の樟腦の產出量を左に掲げる。（單位千斤）

大正八年	二、三四九	同九年	二、八〇七
同十年	一、二八一	同十一年	一、二四七

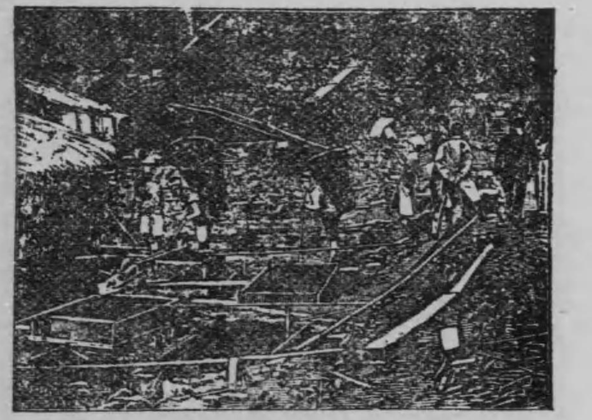
又樟腦の販賣價額は左の如し。（單位千圓）

大正八年	七、四五七	同九年	二、八〇七
同十年	三、二二四	同十一年	七、三七一
同十二年	一〇、七九九		

尙樟腦の輸移出の方面を見ると次の通りである。（單位千圓）

	大正八年		同九年		同十一年		同十二年
輸出	三、〇七四		四、三三五		二八〇		四、四一八		三、三〇五
移出	二、五五七		三、二七二		一、五一七		四、〇八〇		五、二一四

挿繪　粗製樟腦工場



樟腦の製造

この繪は樟腦の製造小屋を見せたものである、屋内にある桶形のものは樟樹の木片を容れて蒸餾する器で、此の器から蒸餾して導いた樟腦分を水中に凝結させ、之を滴板と名くる半筒狀の木板に載せ、こゝで樟腦油を分離滴下させる、滴板の附近にある籠入りの容器は、樟腦油を容れるものである、又地上に散亂してゐる木片は、蒸餾を終つて不用となつたものである。

（ハ）アルコール　製糖の副産物で、糖蜜から製造されるものであるが、糖業の發達に伴ひアルコールの製造高も大に增加し、大正十二年には四百五十餘萬圓に達し、本島有數の工業品となつた。

夏帽子は其の製造一時盛であつたが、近年振はず僅に八十餘萬圓を産したのみで今や重要の工業品でない。

臺灣の工業には、前記の砂糖・アルコール・製茶・鐵工及び鑄物・肥料・油及び油粕等があつて、工業品の總價額は二億四百萬圓に達し、農産物價額の一億六千三百萬圓を凌ぐやうになつた。（大正十二年）

〔4〕鑛　業

（イ）概說　臺灣に於ける既知の有用鑛物は金・砂金・水銀・銅・褐鐵鑛・泥鐵鑛・砂鐵・方鉛鑛・閃亞鉛鑛・硫化鐵鑛・石炭・亞炭・石油・硫黃及び燐鑛等である、これ等有用鑛物の分布を見るに一切の金屬鑛産地は本島の極北部から東部臺灣に限られ、石炭は北部及び中部に存し、石油は全島に頒布するものゝ如く、就中中部南部に、其の兆候稍著しいものがある、而して鑛産總價額は、主として石炭の增産により、一千二百九十一萬

六千圓に達してゐる。（大正十二年）

（ロ）金及び銅　本島に金鑛床の發見されたのは、明治二十三年の夏、七堵鐵橋を架設するに際し、基隆河の砂礫中から、粒狀の砂金を拾得したのに始まる、爾來次第に其の上流を探つて、遂に同二十六年に瑞芳鑛區の金鑛床を、翌二十七年には金瓜石附近の金鑛床を發見し、降つて同三十四年には、牡丹坑の金鑛脈を探知した、更に同三十八年には金瓜石鑛區に、廣大な金銀銅鑛床を發見した、然るに大正二年に至り、牡丹坑鑛山の探索漸く困難に陷つたから、遂に金瓜石鑛山に併合した。

金は砂金と合せて、其の產額、大正元年に四百四十三貫に及んだが、其の後產額面白からず、同十二年には百十二貫に減少した、其の價額も大正元年の二百十九萬三千圓から、五十五萬六千圓に減じた、金の主な產地は金瓜石と瑞芳の二鑛山であるが、瑞芳は最近特に其の產額が減少したやうである。

金瓜石鑛山　基隆市の東方約四里にある、田中鑛山株式會社の經營する所で、明治三十一年金鑛の濕式製錬を開始した、爾後今日に至るまで三十年に近く、一時盛大を極めた金瓜石牡丹坑の富鑛部は、既に略採掘し盡され、近年次第に其の產額を減ずるに至つた。左に大正十二年の金屬製錬高を掲げやう。

	數量	價額	數量	價額
	金		銅	銀
瑞芳鑛山	八六貫	四三〇千圓	一、一七八千斤	一、四四貫
金瓜石鑛山			五四一千圓	二四千圓

明治三十年、大阪の藤田組之が經營に着手し、後次第に其の產額を增し金瓜石鑛山と共に、幾多の內地金鑛山を凌駕したが、後其の產額次第に減少し、又屢經營者を替へ、大正九年十月以來、臺陽鑛業株式會社が之が經營に當つてゐる、大正十年には、金百貫五十萬圓を出してゐる。

銅鑛業は、明治三十八年中、金瓜石鑛區に含金銀硫砒銅鑛を發見したるに始る、依つて金瓜石鑛山では翌三十九年末から、熔錬作業を開始し、爾來次第に其の產額を增加した、現在の銅山としては、尙臺北州下に東澳銅山がある。最近三ヶ年の銅產額を

左に掲げる。

	大正十年	同十一年	同十二年
數量（千斤）	一、九九五	一、八二六	一、一七八
價額（千圓）	六二〇	六九三	五四一

（八）石炭　石炭は臺灣鑛產物價額の約九割を占めるもので、臺北州下の四脚亭・石底・金包里・田寮港等が主な炭坑である、石炭の採掘は、最も長足の進歩をしたもので大正二年には三十一萬九千噸を出したのみであつたが、大正十二年には百四十四萬五千噸に達し、十年間に四倍半に增加してゐる。

左に最近三ヶ年の石炭產出高を示さう。

	大正十年	同十一年	同十二年
數量（千噸）	一、〇二九	一、三四七	一、四四五
價額（千圓）	八、二六三	一〇、五一四	一一、四一六

〔5〕漁業と製鹽　臺灣は四面環海の島であるにも拘はらず、漁港の乏しい爲めか、風浪の高い爲めか、或は豚肉を食する風盛な爲めか、漁業は從來閑却されてゐて、明治四十三年の漁獲高は、九十六萬圓に過ぎなかつた、然るに同年水產施設の實施以來長足の進歩をなし、大正十二年には漁獲高九百三萬一千圓に上り、之を明治四十五年に比すると、價額で十倍の增加を來たせるを見る、而して漁業の中心は基隆と高雄とである。

漁獲物の主なものは、赤鯨魚（たひ）・鰮仔（いわし）・卓鮖（かつを）・烏魚（ほら）等である。養殖業は古來から行はれ、臺中・臺南の海岸地帶が主な場所で、其の面積約一千八百萬甲に上り、漁獲高約三百三十萬圓に達してゐる、漁獲物の主もなのは虱目魚（さつはくひい）・烏魚・牡蠣等である。（大正十二年）

臺灣に於ける製鹽業は、遠く鄭氏の時代に始まり、清領時代には新に稅を課し後官營となし、以て我が領有の時代に及んだ、臺灣は實に天與の好製鹽地たるに拘はらず明治三十一年頃には僅に二百甲の鹽田から、二千萬斤足らずの粗製鹽を得るに過ぎなかつた、又其の價額も著しく不同であつた、依つて總督府はこれ等の弊害を除く爲に明治三十二年五月專賣制度を施行した、爾後年々鹽田を改善擴張し、其の產額を增加

し、之を移輸出品たらしめんとの希望を以て、補助奬勵した結果、大正十一年末には略二千九十一甲の鹽田と、二億斤の年產製鹽とを得るに立つた。

本島製鹽業の中心地とも見るべき處は、新竹・鹿港・布袋・北門・安平・烏樹林・高雄等の西部海岸地方である。

食鹽の內地への移出高は、明治三十三年に始り、爾來年々其の量を增し、大正十一年度には約九百九十萬斤價額九十五萬圓に達した。

左に近三ヶ年の食鹽の販賣高を揭げやう。

	島內	內地	價額
大正八年	六三、四七二千斤	四三、五七八千斤	九七九千圓
同九年	六〇、五四九	一八、五六七	九九八
同十年	七二、五五四	八二、九一〇	一、八二〇

三、教授上の注意

〔1〕臺灣は我が國の重要の熱帶產地たること注意するがよい。

〔2〕臺灣の產物は、其の發達增加をも示すがよい。

〔3〕臺灣は我が國の投資植民地たることに注意するがよい。

〔4〕產物中或るものに就いては實物を示し之が具體的說明を與へるがよい。

第五章　交　通

一、教授の主眼

〔1〕臺灣の鐵道を擧げ、之と產業との關係を知らせる。（特に製糖業との關係）

〔2〕內地と臺灣との交通の狀態、並に臺灣の近海航路を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕鐵道　臺灣が我が領有となつた當時、鐵道は基隆新竹間に、殆と用をなさない不完全の鐵道が、六十二哩餘あつたのみであつた、因て政府は明治三十二年度より十ヶ年の繼續事業として、經費二千八百八十萬圓を投じ、基隆・高雄間二百四十六哩餘の

縱貫鐵道と、臺北・淡水間、高雄・九曲堂間の鐵道を敷設した、これ明治四十年四月である。

其の他重要な線路を擧ぐれば次の如し。

		哩			哩
臺中線	竹南間	五二・五	淡水線	臺北・淡水間	一四・〇
阿里山線	嘉義・竹崎間	八・八	宜蘭線	大里・蘇澳間	二三・六
臺東北線	花蓮港・大庄間	五八・〇	臺東南線	臺東・里壠間	二八・〇
潮州線	高雄・溪州間	二九・二			

以上は官設鐵道の主なものであるが、其の總延長は五百二十哩に達し、尙此の外に各製糖會社經營の私設鐵道が甚だ多い。私設鐵道の敷設は明治三十九年以來、製糖業の勃興に伴ひ發達したものであるが、大正十三年三月に於ける延長は營業線に三百十八哩二專用線に九百四十二哩合計千二百八十哩に及んでゐる。

此の外に、私設軌道即ちトロ又は臺車と稱するものがあつて、補助交通機關として地方の開發交通に貢獻することが頗る大きい、此の軌道の延長は實に五百五十四哩四に達してゐる。

臺灣地方交通圖

されば西部平野に於ては、各種の鐵道發達して、交通の至便なこと、恐らく內地にも例を見ない位であらう。

〔2〕海上の交通　臺灣の二大港たる基隆と高雄との二港は、神戸・門司との間に直通航路あり、又長崎との間にも航路が開けてゐる。其の他臺灣の諸港と、支那・南洋の諸港との間にも、定期航路がある、唯東海岸には一つも安全の錨地がないのは遺憾である。西海岸は砂濱遠く連なり、遠淺で處々に小錨地があるが、何れも水淺き爲め、僅に竹筏・ジャンクが出入することが出來るのみである。

挿繪　基隆港

門司から基隆まで約二晝夜半を要する、即ち今日の午後四時に門司を出帆すると明々後日の午前六時には基隆港に着する。

基隆港及其附近

この繪は港内の岸壁に、臺灣通ひの汽船の碇泊してゐる所で、傍にある二基の機械は一噸半の可動式起重機である、起重機は總て十數臺ある、遙向の岸壁に碇泊してゐる船は、郵船會社の定期船であらう。

三、教授上の注意

長七百七十米の岸壁には、六千噸級の船舶七隻を同時に繫留せしむることが出來る。

基隆の築港は、明治三十三年以來、一千三百五十七萬圓を投じて、諸種の設備を完成せしめ、延

〔1〕鐵道も航路も地圖によつてよく觀察させるがよい。

〔2〕旅行案内を利用して内地臺灣間航行に要する日數賃錢等、具體的に說明するがよい。

〔3〕適當な白地圖を用ゐて、交通路の記入練習をさせたい。

第六章　住　民

一、教授の主眼

〔1〕臺灣の住民は内地人と著しく異なること。

〔2〕臺灣の人口並に内地人の人口に就いて知らせる。

二、教材の解說

〔1〕**人口**　臺灣に於ける戶口調査は、第一回臨時戶口調査として、明治三十八年十月一日に之を行ひ、其の後十年を經て大正四年十月一日、第二回の調査を行ひ、大正

九年十月一日には、內地と同じく第一回の國勢調査を行つた、該調査の結果並に其の後の調査によれば、三百九十七萬六千である、人口の增加は左表に依つて略之を知ることが出來る。（單位千人）

	內地人	本島人	生蕃	外國人	合計
明治三十八年	六〇	二、九七九	七六	八	三、一二三
大正五年	一四二	三、三四九	八六	一九	三、五九六
同十年	一七五	三、五四八	?	二八	三、七五一
同十二年	一八二	三、六七九	八四	二三	三、九七六

前表の生蕃は蕃界にあるものゝみで、行政區域內にあるものを含んでゐない。

又前表によるときは、臺灣の人口が十五年間に約六十三萬を增加したことが知れる、一方里の人口は一千七百人で、我が國の平均人口よりは小さいが、此の人口の大部は西部の平野に住まつてゐるから、西部平野の人口密度は、これよりも遙に大きく、二倍乃至三倍になつてゐる。

〔2〕種族　臺灣に於ける住民の大分は、支那民族であるが、其の原產地により、福建地方から來た閩族と、廣東地方から移住した粵族とに別れる。閩族は粵族よりも其の數遙に多く、粵族を呼んで客人というてゐる。臺灣にある外國人は多く支那人であつて、歐米人は其の數が極めて少ない、臺灣人は其の風俗習慣支那人と大差はないが次第に內地風に化するものもある。

土人はもと馬來系統に屬し、生蕃に約八萬四千、熟蕃に五萬ある、其の皮膚は帶黃褐色、頭髮は黑色直毛で、鬚髯が少ない、生蕃は今や概ね東部の山地に割據し、臺灣島面積の約六割を占め、馴化の程度、熟蕃よりは甚しく後れてゐる、彼等生蕃はタイヤル・ブヌン・ツオウ・バイワン・アミ・ヤミ及びサイセットの七種族に分れてゐる。性質は一般に慓悍であるが、中でもタイヤル族最も兇暴である、此種族は埔里社以北の中央山脈に沿へる一帶の山地に蟠居し、首狩の風を存してゐる、又黥の風習があつて、男は額と顎とに短直線の黥を施し、女子は額及び口邊から頰にかけて之を爲す、又耳

朶に孔を穿ちて耳飾をなす奇習がある。家屋は附近の材料を集めて、自ら之を構築するのが常であるが、又社内の助力も受ける、即ち木材を柱となし、萱又は竹を以て、兩面傾斜の屋根を葺き、或は又石板石・檜板・檜皮で、屋根を葺くこともある。

理蕃事業としては、明治三十五年土匪全く平定したから、此の年警察本署内に蕃務掛をおき、爾來明治四十二年に至るまで、幾度か隘勇線を進め、或は蕃社を討伐して彼等の勢力圏を縮小させたが、尚北蕃中の大部族は、土地の險阻と壯丁の衆多とを恃んで、横暴を逞しうするにより、五ヶ年計畫の大理蕃事業を企て、大正四年一月を以て二萬餘挺の銃器を押收し、北蕃南蕃討伐の一段落を告げた、之が爲めに多大の犧牲と幾多の國費を拂つたけれど、今や生蕃も概ね歸領するに至つた。

三、教授上の注意

〔1〕住民の風俗に關する繪はがき等を示すがよい。

〔2〕西部平野の人口密度の少くないことを注意するがよい。

〔3〕蕃人は憐むべきものであつて、憎むべきものでないことに注意したい。

第六章　都邑　附澎湖島

一、教授上の主眼

〔1〕臺灣の主な都邑について、其の狀況並に發達の理由を知らせる。

〔2〕主な都邑は市區改正を行ひ、面目を一新したこと。

二、教材の解說

〔1〕**基隆市**　基隆市は臺灣の咽喉で、神戸を距ること九百九十二浬、門司を距ること七百五十二浬、近年著しく發達して、人口は五萬六千許と成り、其の中内地人は約一萬二千を占める。第一期以來二千二百餘萬圓を投ずる築港が竣成すると、岸壁に三千噸級乃至一萬噸級の汽船十五隻を同時に繫ぐことが出來る、而して牛稠港岸壁からは一年に八十萬噸の石炭を積み出し、同港の奥地に三千噸級と一萬噸級との二船渠を

設けて、船舶の修理に應ずることが出來、一年に百六十萬噸の貨物を荷役する。主要産物たる米・樟腦・樟腦等の輸出が行はれ、內地との取引が多い。此の地方は要塞地帶である。近傍のクールベー濱に、清佛戰爭の際死んだ佛兵の墓がある。

〔2〕**臺北市**　臺北市は城內・大稻埕・萬華及び附近の部落を合はせたもので、面積二方里七分。人口は約五萬二千の內地人を含んで十八萬七千を超え、市區を改正し臺灣の最大最美の都會となつた、總督府・州廳の所在地である。城內は元支那式の城壁を繞らして居つたから此の名があつて、東・南・北の三大門と小南門は未だ殘つてゐる、主要政治機關・博物館・圖書館・商品陳列館・各種の學校等が置かれ、人口は約一萬二千ある。大稻埕は城內の北にあつて製茶の業が榮え、大商賈が軒を列ねてゐる。萬華は西門外にあつて、元艋舺（マンカ）と記され、河港として繁昌したことがある。住民は三萬七千位ある。臺北市內外の名勝の地は臺北公園・圓山公園・官幣大社臺灣神社・劍潭寺等で、臺北公園は城內に、圓山公園は臺北驛の西方三十町の小丘上にあり、臺灣神社劍潭寺は基隆河の右岸にある。又是等よりは西の方に、北投溫泉がある。臺灣神社は市街を北に去ること三十町、臺灣唯一の官幣大社で、大國魂命・大巳貴命・少彥名命・北白川宮殿下を奉祀す、社殿は江流に臨み、翠巒を負ひ、神威の高きを覺える。附近に北投溫泉がある。此の溫泉は臺北から汽車三十分程、翠山四周を繞る所、靈泉沸々として湧き溫泉場としての設備よく整ひ、臺灣屈指の保養遊覽地である。（人口は大正十二年以下同じ）

捕繪　臺北の市街

臺北市は市區改正を行ひ、制限建築を行つたから、堂々たる洋風の建築、アスファルトの道路、內地には類稀なる市街となつた、此の繪は總督府の高塔上から、公園や市街を東方に瞰下した光景で、畫の中央に見えるのは音樂堂、其の北なるは記念博物館、其の右の細長い西洋建築は臺北醫院で、其の北後の大建築は臺北州廳、最も近く見える洋風建築は民政長官の官舍である、尙臺北公園には兒玉大將の大理石像や、元民政長官後藤新平の銅像などが立つてゐる。

〔3〕淡水街　淡水河口にあるが、同河は沙泥の爲めに淺く成り、基隆は益繁華と成るに反し、當地の市況は衰へた。人口は約二萬あつて內地人は六百人許に過ぎない。附近に西班牙人の築いた紅毛城があつて、今は英國領事館と成つてゐる。

〔4〕臺中市　臺北の南百哩、臺南の北九十九哩の處にあり、眞に臺中の名に負かない、州廳の所在地である、建設の新しい內地式市街で、人口三萬八千、內、內地人約一萬ある、市內に有名な公園があつて、臺南公園と並べ稱せられてゐる。

〔5〕嘉義街　臺南の北三十八哩にある。臺南州屈指の都會で、六千の內地人を併せて、人口四萬二千ある、鐵道阿里線の分岐點で、壯大な製材所があり、附近に製糖工場、名所古蹟が多い。

〔6〕臺南市　臺北を南に距ること二百哩、本島最舊の市街、久しく臺灣の首府となり、臺灣といつた處、今州廳の所在地で、商業頗る殷賑である、今安平を合せて人口八萬三千を有し、內地人一萬四千ある、其の公園は島內最大最美のものである、市內に北白川宮殿下の御遺跡・孔子廟・關帝廟・赤崁樓・鄭成功の邸址等がある。

高雄港

〔7〕高雄市　舊名打狗、縱貫鐵道の終點に位し、臺南市の南二十九里、築港以來長足の發達を爲し基隆と共に本島の二大港となり、新鋭の氣に滿ち砂糖・米の積出が頗る多い、今州廳をこゝに置き、人口四萬ある、內・內地人一萬に餘る。

〔8〕屏東街　もと阿緱といひ、高雄の東十五哩にある、下淡水溪以東第一の都會で、人口二萬四千、內・內地人三千ある、屏東驛に近く、臺灣製糖株式會社の壯大な製糖工場がある。

〔9〕花蓮港街　蓉萊溪の口に近く位し、花蓮港廳の所在地であるが、文化は後れてゐる、人口七千二百の內、內地人は三千四百を有するから、自ら萬事に活氣がある、

附近に吉野村・豐田村・林田村等の內地移民村がある。

〔10〕澎湖諸島　安平から西北五十二浬、高雄から七十二浬にある。大小四十七個の島嶼と數多の岩礁とから成つてゐる。面積八方里その內面積五方里の澎湖島、白沙島・漁翁島等が主な島である。土地多くは高さ僅に二三十米の低い熔岩臺から成り、農作物や樹木がよく生育しない、前記三島の間には、東西三浬、南北五浬の廣大な澎湖灣がある、臺灣海峽に於ける良好の船舶避難所で、又海軍要港がこゝに置かれてある、馬公街は澎湖諸島の首府で、往年蘭人が占據した處である。人口二萬、內・內地人二千三百、附近にクールベー將軍の墓がある。

第四編　朝鮮地方

第一章　區域

一、教授の主眼點

朝鮮の位置・境域・面積・區分等の大要を知らせる。

二、教材の解說

朝鮮地方はアジヤ大陸東部の朝鮮半島と、之に屬する大小數多の島嶼とを合せ稱するものである。其の面積一萬四千三百十二方里あつて、本州と略其の面積を等しくし又我が國全面積の約三分の一に當つてゐる、北は滿洲・シベリヤに境し、東は日本海、西は黃海に臨み、南は黃海と朝鮮海峽とに面してゐる。

朝鮮地方はもと大韓帝國と稱した處であつたが、國力微弱で常に東洋禍亂の淵源と

なり、其の政治は紊亂し、民は塗炭に苦んだ、依て我が國は之が禍源を根絶し、東洋永遠の平和を圖り、荒廢した邦土を開拓し、民衆を撫育し治平の慶に浴せしめる爲め明治四十三年八月之を帝國に併合し、國號を廢して朝鮮と改め、朝鮮總督を京城に於いて之を統轄させてゐる。

行政上之を十三道に分かち、更に之を十二府二百十八郡に分かつ、十三道の名稱・面積・人口等は左の如し。（大正十二年末）

道	面積	人口	一方里人口	首府
京畿道	八三一方里	一、八五六千人	二、二三四人	京城
忠淸北道	四八一	七八三	一、六二八	淸州
忠淸南道	五二六	一、二六八	二、二二一	公州
全羅北道	五五三	一、二五一	二、二六三	全州
全羅南道	九〇〇	一、九九九	二、二二一	光州
慶尙北道	一、二三一	二、一四二	一、七六〇	大邱
慶尙南道	七九八	一、八三五	二、三〇〇	釜山
黃海道	一、〇八五	一、三三〇	一、二二六	海州
江原道	一、七〇三	一、二一六	七一四	春川
平安南道	九六八	一、一五一	一、一九〇	平壤
平安北道	一、八四四	一、三〇一	七〇五	義州
咸鏡南道	二、〇七三	一、二五六	六〇六	咸興
咸鏡北道	一、三一九	五九六	四五二	羅南
合計	一四、三一二	一七、八八五	一、二五〇	

三、教授上の注意

〔1〕面積は全國の百分比圖を示すがよい。

〔2〕地圖によつて位置隣界を明にするがよい。

〔3〕我が國に併合した理由を明にしたい。

〔4〕各道は位置の大略を示せばよい。

第二章　地　勢

一、教授の主眼點

朝鮮の山脈・河川・平野・海岸の大要を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕山脈　朝鮮は中國地方に於けるやうに、全土殆と山岳に掩はれ、丘陵到る處に起伏してゐる。朝鮮の山脈は地質構造上、之を南北の二部に分かつことが出來る、其の北部は特に山岳に富んでゐるが、長白山脈に屬する白頭山は滿洲との境上に峙ち、高さ二千七百四十四米、朝鮮第一の高峰である、其の頂上は火山岩から成つて、水を湛へた火口湖がある、鴨綠江の南岸に沿うて江南山脈走り、其の南部に妙香其の他の山脈があつて、西南より東北に走り、一帶の高原地帶を作つてゐる。南部朝鮮にあつては、山脈の走向北部朝鮮のものと異なり、日本海岸に沿うて南北に走る大白山脈がある、日本海と黃海並に朝鮮海峽との分水界をなしてゐる、大白山脈の北部に峙つ金剛山は、高さ一千八百十八米、朝鮮屈指の高峰で、山容の奇峭雄麗なこと、朝鮮の山岳中之に及ぶものがない。

挿繪　白頭山の頂上

朝鮮第一の高峰白頭山の雄姿を見せたものである、此の山は大死火山であつて、其の頂上は熔岩屹立天を摩してゐる、往時盛に噴出した熔岩は、蓋馬高原に流れてゐる、黑色の熔岩の間に白く見える所は、火山砂の堆積したものである、白頭山頂の火口は、今は湛水して龍王潭と稱する火口湖を作つてゐる。

挿繪　金剛山中の勝景

金剛山は江原道と咸鏡南道との境に峙ち、十里四方四郡に跨り、一萬二千衆峰の總稱である。其の奇峰怪嶺の群立する樣、天下の名山も之と奇絕を爭ふものがない。といはれ、あらゆる山水美の精粹を鍾めた、此の自然の大文章大藝術に對しては、

古來よく之を詩文繪畫に、其の一端をすら寫したものがない。

金剛山は南北に通ずる分水界によつて、其の西部を內金剛、東北部を外金剛、東南部を新金剛といひ、更に東方海岸に屹立する衆峰を海金剛といふ。この繪は外金剛の北部にある萬物相といふ勝區で、岩石形相の雄偉怪奇なこと、この繪に依つて其の一端を窺はれる、萬物相は溫井里から一里二十三町の處に始り、寒霞溪を挾んで長さ三里に亘り、舊萬物相・新萬物相・奥萬物相等があつて、千變萬化實に名狀することが出來ない、山の名は四時風光の變化と共に變化し、金剛は春の名で、夏は蓬萊、秋は楓岳、冬は皆骨と呼ばれる。京元線平康驛から內金剛の長安寺まで、三十五里、外金剛へは元山から長箭港まで五十三浬六時間、長箭から溫井里まで二里二町とす。

大白山脈の西南部に、小白山脈其の他二三の小山脈があつて、東北から西南に向つて走つてゐるから、南部朝鮮も亦廣く丘陵に掩はれてゐる、從つて朝鮮は南部北部何れも面積の大きい平野がない、唯大江の流域海岸等、處々に小平野があるのみである。

〔2〕河川及平野　朝鮮に於ける主要の分水界は、中部以南にあつては、日本海岸に沿うて走り、北部にあつては、咸鏡南北兩道の境をなし、遂に白頭山に達してゐるから、日本海方面には豆滿江の外一つも重要の河川がない、然るに黃海方面は地勢全く之に反してゐるから、河川の大きいものは多くこの方面にある、主な河川には國境を成してゐる鴨綠江の外に、大同江・漢江・錦江がある、南流して、朝鮮海峽に注ぐものに洛東江がある、鴨綠江、豆滿江を除いて、其の他の河川の沿岸は、地味が肥沃で、農業榮え、都邑相連り、交通の便もよい。

（イ）鴨綠江　源を白頭山の南麓に發し、長白山脈から出る數多の小流を集めて、西北に流れ、更に南下楚山に到りて、滿洲より來る渾河を容れ、義州の上流で、滿洲の渾河を合はせ、河中に九里島・於赤島・黔同島・中江鎭等の砂洲を造り、安東縣に到りて更に威化島を堆成し、遂に黃海に入る、其の長二百一里に及び、我國第一の長流であ

鴨綠江口附近

平野がない。

（ロ）**大同江**　源を平安南北兩道、及び咸鏡南道の道界に聳ゆる狼林山に發し、妙香山脈の南側に沿ひ、平壤附近を流れ、兼二浦を過ぎて載寧江と合し、鎭南浦に至つて黃海に入る、流路延長百十一里、農產豐富の平野を貫き、航路の延長六十六里に餘り江運上重要の河流である。

るが、河床の傾斜が急で、岩礁激流少なからず、河口の龍巖浦から溯ること十五浬の安東縣まで、高潮時に於て約十呎の水深を保ち、優に一千噸の汽船が航行出來る、新義州・中江鎭間には、總督府命令の淺吃水汽船の定期航行がある、本江の上流は有名の大森林地帶で、其の伐材は筏に組みて、流送される、本江の流域は極めて狹長で、著しい

（ハ）**漢江**　源を大白山脈に發する、南漢・北漢の兩江は、春川の附近で相合し、春川江と呼ばれる、それから西流して龍山の附近を過ぎ、右岸に臨津江を容れ、江華灣に入る、長さ百三十一里。江口から龍山まで十七里の間、小汽船の航行に堪へる、其の舟楫の通ずる處、八十四里に及び、其の流域は朝鮮屈指の平野であるから、米穀・木材の此の江を下るものが頗る多い。

（ニ）**錦江**　南朝鮮に於ける大河の一であつて、其の流域は忠淸南北兩道及び、全羅北道の三道に跨り、其の面積六百四十方里に達し、流路百二里、扶餘附近まで自由に航行することが出來、三道の平野は主に此の流域に發達し、河口に群山港が出來てゐる。

（ホ）**洛東江**　源を大白山脈に發し、慶尙南北兩道の平野を貫流し、釜山の西方に於て朝鮮海峽に入る、長さ百三十三里、其の流域面積千五百四十七方里、平野到る處に開展し、地味概ね肥沃、灌漑の便多し、本江は勾配緩で八十七里の上流安東まで、溯

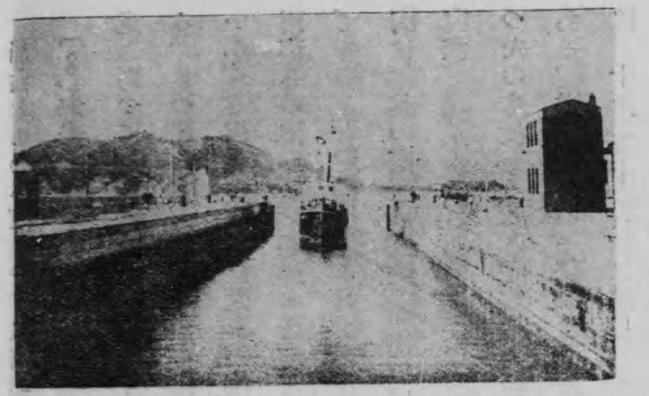
江することが出來る。

（へ）豆滿江　源を白頭山に發し、河身次第に大となつて茂山に至り、穩城の北で、間島から南下し來る布爾哈圖河を容れ、慶源に於て琿春河と會し、水量益加はり、造山灣の北で日本海に入る、河長は百三十二里に及んでゐるが、流勢速く、降雨の際は屢氾濫し、舟行困難で、江口から慶興まで、百噸内外の汽船を通ずるに過ぎない。

挿繪　平壤牡丹臺と大同江

此の繪によつて、大同江の有樣や、屈指の要害たる牡丹臺の光景を察することが出來る。牡丹臺は丘陵に依つて築城された城壘で、日清戰役に名高い。平壤の市街はこの城壁を入り、乙密臺・浮碧樓・水道貯水池等を經て、其の少し南方から、大同江に沿うて南西に連つてゐる、丘陵の下洋々として流れてゐる水は、即ち大同江で右方に見える沖積地は、即ち綾羅島で、平壤の一名勝である。大同江は綾羅島の上流では西流するが、この綾羅島を抱いてからは南流し、平壤の東岸を洗つてゐる、屈曲してゐる河道や、又河幅の廣いことなどが繪によつて見られる。

〔3〕海岸　日本海に沿へる海岸は、一帶に山岳海に迫る處が多く、或は絶壁をなす處もあつて、良好の港灣少なく、元山を除く外、城津・清津等の小港があるのみである、且つ此の方面は、一般に山岳の起伏する處であつて、產業が起らず、人口が少ないから、海上の交通は之を黃海方面に比べると、遙に劣つてゐる。之に反して南部と西部との海岸は、朝鮮多島海といはれる通り、島嶼の夥しいこと、海岸の出入に富んでゐること、稀に見る處である、即ち南部では釜山・鎭海の二灣最も著れ、中でも鎭海灣は、其の南面に巨濟・加德の二大島が横はり、以て朝鮮海峽の波浪を遮ぎる、灣内は廣濶で、數十隻の船艦を碇泊させることが出來る、日露戰役の際我が艦隊の根據地となつたのも故あることである。西海岸には木浦・群山・仁川・海州・鎭南浦等數多の港灣がある、唯西海岸の一部には潮汐昇降の差が、頗る大きく、特に江華灣（京幾灣）の如きは、十米（三十三尺）に達し、干潮時に於ける船舶の碇泊出入に頗る困難であるので、



仁川港

仁川の如きは特殊の築港に依つて、船舶出入の便を圖つてゐる。

挿繪　仁川港ドック水門の外側

繪の正面に當り、左右に開く扉の見えるのが卽ち閘門である。この扉を閉ぢると、干潮時でも海水が引かないから、閘門内及びドックは一定の水深を保つことが出來る、閘門は二ヶ所にあつて、水を調節するから、海水の滿潮時は勿論、干潮時でも、船は隨時出入することが出來るやうになつてゐる、本文を參照されたい。

挿繪　仁川港のドック

ドックの水面は見えないが、汽船が二隻繫船壁に横付になつてゐるので、便利な港であることが知られる、繪の左方に見える建物は上屋である。

仁川は西岸第一の要港であるから干潮時の不便を除かん爲、十ヶ年の繼續事業で諸工事費五百六十六萬餘圓を投じて、築港した、工事の大要は船渠と稱する船舶の繫留區を築いた、其の長さ二百五十間幅百二十間、水面積三萬坪、最低水深二十七尺五寸、最高水深三十五尺、繫船壁には四千五百噸級の航洋汽船三隻を、同時に繫留することを得る、こゝと外洋との通路は閘船渠といひ、全長五百四十四尺幅六十尺、二箇所に門扉を備ふ、何れも雙扉で上流門扉は一葉百〇七英噸、下流門扉は一葉百三十英噸、門扉一葉を開くに、八人の力を以て六分を要するものであるが、電力を使用するが故一分間で開閉する、故に船舶は潮の干滿に拘らず、四六時中隨意出入すること出來、船舶の出入あることに、船渠内の水が外海に向つて排水されることは、パナマ運河と其の構造を同じくしてゐる。

三、教授上の注意

〔1〕地圖の指導觀察によつて、山脈・河川・海岸の狀態を學習させたい。

〔2〕河川の長さは近年訂正されたことに注意し、且內地の河川よりも舟運一般に大きいことに注意するがよい。

〔3〕仁川港に於ける船の出入の狀を明にするがよい。

〔4〕仁川港に於ける潮汐干滿の差の大なる理由を明にするがよい。

第三章　產　業

一、教授の主眼點

〔1〕朝鮮の土地は從來荒廢してゐたが、併合以來大に面目を改めたこと。

〔2〕併合によつて各種の產業發達し、朝鮮人が經濟的幸福を增進したこと。

〔3〕朝鮮の產物中、內地に供給されるもの等について大要を授けること。

二、教材の解說

〔1〕農　業

（イ）概說　農業を述ぶる前に朝鮮の氣候を瞥見しやう、朝鮮に於ける年平均氣溫は南部の海岸地方では攝氏十三度餘で、中部の京城・仁川地方では降つて十度內外となり國境附近の內陸では四度乃至三度となる、之を內地に比すると、東京から北海道までの氣候に略同じである、殊に夏季は溫度高くて、全土農業に適せざる所はない。

雨量は大白山脈附近を除く外、一般に少なく、北朝鮮では多くは千粍に達しない、即ち釜山に一千四百十九粍、江陵に一千三百八十三粍、元山に一千三百五十二粍の雨量を見るが、仁川では九百二十一粍、平壤では八百九十二粍、龍巖浦では八百八十三粍の雨を見るに過ぎない、かく概して降雨は多くないが、林制紊亂の結果、山地の大部分は荒廢し、雨季には洪水を起して田園を荒し、又灌漑の便が乏しい、朝鮮に原野荒蕪地の多かつたのはこれが爲めである。

されば併合以來、土地の改良開發を圖る爲に、森林を仕立てゝ水源の涵養法を圖り或は灌漑の工事を起し、或は內地から模範農民を移住させて、以て土地開發に努めたから、耕地面積も大に增加し、農產物も著しく其の產額を增し、面目を一新するやうになつた。

左に耕地面積の發達を示さう。

	田	畑	合計
大正元年	一、〇二四千町	一、八二三千町	二、八四七千町
同五年	一、三四〇	二、二四九	三、五九〇
同十年	一、五四四	二、七七九	四、三二二
同十二年	一、五四九	二、七七一	四、三二〇

最近十年間に於ける耕地の增加は、實に六割五分の多きに達し、尙ほ國有民有合せて七萬四千町步の未墾地ある外、山麓の緩傾地、並に干潟等の開墾し得べき土地が甚だ少なくない、これ一つは人口の稀薄にもよるが、朝鮮の土地が從來いかに荒廢してゐたかを知ることが出來る。

（ユ）農產物　農業は古來朝鮮第一の產業で、住民の約八割は現に之に從事してゐる、米・大豆・大麥・小麥・粟等は穀類中重要のものである。

米は一千五百萬石（一億一千四百萬圓）をこえて、穀類中收穫最も多く、主に南部の諸道に產し、從來品質劣等であつたが、改良を圖つた結果、今や內地米と格別の差がないやうになつた、但水稻一反の收穫は次第に增加するが、尙九斗七升三合に過ぎない。（大正十二年）

大豆は各地に之を產するが、北部を主產地とし、四百七十萬石內外に達し、百三四十萬石內外の輸移出をしてゐる。大麥も各地に產して七百萬石內外を有し、粟は中部北部に產し、朝鮮の重要食品であつて、年六百萬石內外の產がある。

左にこれ等穀類の最近の收穫高を一表として示さう。（單位千石）

	大正十年	同十一年	同十二年
米	一四、三二四	一五、〇一四	一五、一七五
大豆	四、六七九	四、五一六	四、六四一
小豆	一、〇七四	九〇四	九八八
大麥	七、六一六	六、八二〇	六、二三一
小麥	二、一七一	二、〇五七	一、六八〇
粟	五、八六三	五、一三八	五、二九八

この中米と大豆とは、重要な輸移品であつて、其の高米は三百九十二萬九千石一億一千四百萬圓、大豆は百二十八萬三千石二千百萬圓に達してゐる。

挿繪　群山港にたける米の積出し

山と積まれた叺の貨物は即ち米で、鮮人勞働者が之を背負ひて船に運んでゐる。港内には數多の船舶が碇泊して、檣が林立してゐるのが見える。

この外特用農産物として中部から南部にかけて煙草・棉花の栽培が行はれ、開城附近には人蔘の栽培が盛である。

棉花は江原道・咸鏡北道、並に咸鏡南道の一部を除くの外、各地に之を栽培せざるなく、就中全羅南道・慶尙北道及び平安南道が其の主產地で、全羅北道・忠淸南北道、及び黃海道之に次ぐ。朝鮮の在來綿は纖維長く彈力に富んでゐるが、品質が優良でないから、明治三十九年以來、收量が多く纖維細長で、紡績原料に適する米國種陸地綿の栽培を奬勵した、然るに成績良好で、陸地綿は南朝鮮を風靡するやうになつた、而して大正八年から陸地綿の不適な京畿・黃海・平安南北の四道、及び忠淸北道・慶尙北道の一部には、在來綿を栽培し、左表に示すやうな好成績を擧げてゐる。

		在來綿	陸地綿	計
作付段別	大正十年	四二、七九七町	一〇四、九四一町	一四七、七三八町
	同十一年	四七、〇五七	一〇四、〇二六	一五一、〇八二
	同十二年	四九、二一九	一〇九、六六〇	一五八、八七九
收穫高	大正十年	二七、五八九千斤	六七、八五八千斤	九五、四六六千斤
	同十一年	二九、九三〇	八八、七七八	一一八、七〇八
	同十二年	三〇、七七一	九六、八二七	一二七、五九八

而して陸地綿の栽培面積は右の通りであるが、明治四十三年には僅に一千二百六十八町であつた。又綿は主として內地に向け移出するが、大正十年に三百五十三萬九千圓、同十一年に三百五十二萬六千圓、同十二年に八百六十八萬圓の巨額に上つてゐる。

煙草は各道到る處產せざるなく、耕作面積八千百十四町歩に及び、百七十五萬二千貫の煙草を收穫してゐる、煙草は大正十年七月から專賣制度を施行し、從來の民間煙草製造工場を買收して、之が製造を行つてゐる、政府の重要の一財源である。最近三ヶ年の葉煙草收穫高次の如し。（單位千貫）

大正十年	三、六六六	同十一年	二、八一二	同十二年	一、七五二

人蔘は五加科の宿根草で、滿洲及び朝鮮を源產地とし、山林に自生するものもあるが、自生品は山蔘と稱して價が特に貴い、人蔘は漢方醫の解熱劑として用ゐるもので支那人は萬能の靈藥として用ゐる外、贈答用として富豪大官の間に尊重される。

人蔘の栽培は、約六ヶ年の長年月を要するものであるから、其の間の栽培保護は困難で、種々の故障が起り易いのである。韓國宮內府の直營時代には、濫穫や病蟲害の爲めに收穫次第に減少したから、明治四十三年十月之を總督府專賣局の所管に移し、試驗所を設けて、大に病蟲害驅除、栽培改良に努めた結果、次第に產額を增し、事業の發達大に見るべきものがあるやうになつた、卽ち左の如し。（單位斤）

人蔘收納高	明治四十四年	七、七一九	大正元年	一六三、三七三	同十年	一二〇、〇〇〇	同十一年	一六三、五五三

大正十二年には、四十一萬九千七百八十八坪の畑より、水蔘十六萬六千二百八十二斤を收穫し、四萬六千二十二斤の紅蔘を製造した。

人蔘は其の製法によつて紅蔘・白蔘の二種となる、紅蔘は水蔘即ち生蔘を蒸して、日光及び火熱によつて乾燥したものである、白蔘は水蔘を單に日光に乾かして製したもので、價前者は貴く、後者は廉である、共に其の形體の大きいのが尙ばれる、試に支那で消費される、各國人蔘の一斤の小賣相場を擧げて見ると、日本內地產五圓、滿洲

產八圓、米國產二十圓、朝鮮產百五十圓である。如何に朝鮮產即ち高麗蔘が、支那で貴重されるかは、これに依つて知ることが出來る。

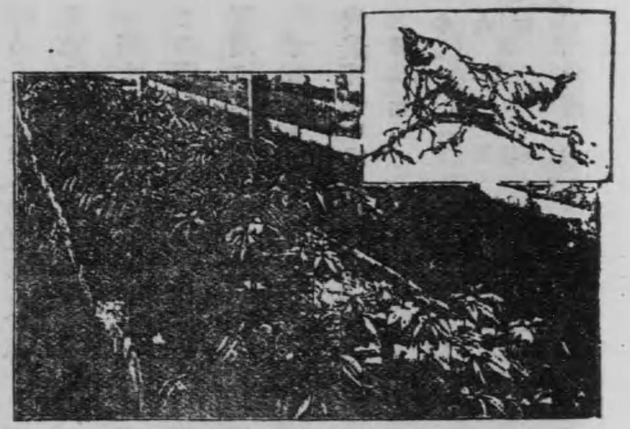
挿繪　煙草の耕作、煙草の刈取

この繪は煙草を植付けた畑と、煙草の刈取りの狀況を示したものである。煙草は春種を下ろし、夏移し植ゑるのであるが、この繪は其の移植の光景である。繪に見えるやうに、人手に依つて耕しもするが、又牛を使用して耕させることも多い。

畑の向に見える家屋は、何れも農家で泥土と石片とで四壁を疊み、屋根は藁で葺き、床下に溫突を通した朝鮮特有の構造である。

刈り取りの光景は、如何にも葉煙草收穫の盛なるを見せたもので、籠に入れ、或は肩にせる葉の多さ、殊に其の形狀の大なること等は、朝鮮が煙草栽培の適地たるを表はしてゐる、葉の長さは尺餘に及んでゐる、刈り取りは秋である。

挿繪　人蔘畑と人蔘



人蔘と人蔘畑

この繪は京城附近の人蔘畑である、人蔘は先づ苗圃に種を下ろして苗を作り、後之を本圃に移植するのである、苗圃は幅二尺七寸乃至三尺、高さ一尺四寸位に土盛し、青石で圍むのである。この苗圃の上に、更に適當な土を六七寸盛り、こゝに種を下ろし、空俵を以て之を掩ひ、發芽すれば之を除去する、而して日光の直射を防ぐ爲めに其の上に一種の小屋掛けをするのである、小屋の高さは前方一尺一二寸、後方三尺一二寸、九尺毎に四方に柱を建て、蘆簾を以て之を覆ひ、尙ほ前方は簾を開閉自由なら

しめる樣に作るのである、かくして晴天の日には柄杓を以て水を灌ぎ、風雨や強い日光に當らぬやうに、絕えず保護を加へる事が必要である、繪の中の人物は、今其の灌水を行うてゐる所である。近景に小屋に立て掛けてあるものは柄杓であらう、この柄杓は瓢を切つて底に穴を穿ち、如露の如くにしたものを用ゐる習ひである。苗圃には盜難を防ぐ爲めに、其の傍に多く番小屋を作つて置く、繪の中の建物はそれであらう。

尙農產物中輸移出の餘力ある主なものは次の通り。（大正十二年）

種類	價額	種類	價額
米	一一三、九〇二千圓	繰綿	八、六七九千圓
大豆	二〇、八一七	繭	七、七〇四
紅參	二、二四二	生絲	四、四九四

〔2〕**牧畜**　朝鮮では耕作運搬用として、又食用として牛の需要が盛であるから、全道到る處の農家に飼養されてゐる、一般に體軀肥大で力强く、性質溫順、價額低廉であるから、近年內地・露領沿海州、及び支那等に移輸出されるものが多い、大正十二年に於ける牛の頭數は百六十一萬頭で、內地の牛よりも多い、又同年に於ける生牛の移輸出高は、四萬九千餘頭に達し、其の價額三百六十餘萬圓を算する、其の他牛皮・牛脂・牛骨・牛蠟等の移輸出高亦二百四十餘圓に上つてゐる。

豚は食用として一般農家に飼養され、其の數百十七萬二千に及び、頭數牛に次いでゐる、在來種は體軀矮小晩熟で、肥大性を缺き、品質よろしくないが、生產は頗る多い、近年改良種としてバークシャの飼養が多く、總頭數の一割八分を占めてゐる。

〔3〕**林業**　朝鮮では長い間、或る特定の場所の外、殆と森林に對する保護がなく、濫伐が行はれて、植林に努めなかつたから、林野の面積は全國面積の七割五分に及び森林の總面積一千六百萬町步の多きに及んでゐるが、成林地は近年增加するが、尙其の內五百萬町步で、其の他の七百三十萬町步が稚樹發生地、三百十萬町步が無立木地となつてゐる。これ實に土地荒廢の主因である、されば政府は明治四十年以來、國費

を以て京城附近其の他に、模範造林を行ふと同時に、一般に種苗の無償下附をなし、又各道に於て地方費模範造林を行ひ、大に造林の奬勵を行ひたる結果、民間に於ける植林事業は、近年異數の發達を遂げ、大正十一年には、官民の植栽面積五萬三千餘町歩に達し、之を四十三年の四千餘町歩に比するときは、霄壤の差ありといふべきである。

植栽樹種はアカマツ・クロマツ・ニセアカシヤを主とし、ヤマハンノキ・クヌギ・白楊類之に次ぎ、其の他試植したものが少なくない。

鴨綠江・豆滿江流域の森林は、朝鮮の森林中最も重要のもので、面積二百十一萬町歩に及び、其の九割三分は成林地で、紅杉（ホンスン）・杉松（サアスン）・落葉松等の針葉樹最も多く、濶葉樹は少ない、其の伐採植林の事業は、總督府所屬の營林廠の掌る所で、本廠を新義州におき、伐木・造林・運材・製材・販賣等一切の業務を掌理し、鴨綠江流域の惠山鎭・中江鎭・新乭坡鎭・高山鎭と、豆滿江流域の茂山とに支廠をおき、會寧及び龍山に出張所を設置し、森林經營の實行に當らしめてゐる。

紅杉はテウセンマツ即ち朝鮮五葉松の俗稱で、直徑三尺以上の大材が少なくない、材質は木理直通色澤佳良で、反張伸縮することが比較的に少ない、建築・家具・枕木等の用材として、近來需要激增した。

杉松　タウヒ・タウシラベ・テウセンハリミを併せたものゝ俗稱で、略々北海道のエゾマツ・トドマツに類似してゐる、材質は紅杉に劣るが、價額低廉であるから、廣く建築材・函材・木板・製紙原料・マッチ軸木として用ゐられ、需要が頗る多い。

落葉松　テウセンカラマツの俗稱で、樺太のシコタンマツに類似してゐる、直徑二尺内外の材が少なくない、年輪緻密材質强硬、且つ耐久力に富むから、建築・橋梁・船艦・枕木・電柱等に適する。

前記森林面積二百十一萬町歩の内、八割四分即ち百七十七萬町歩は、成林地であつて之が材積は鴨綠江流域に六億六百尺締、豆滿江流域に二億二千百萬尺締、合計八億

二千八百萬尺締ある。

挿繪　新義州の港に於ける木材の積出し

繪に見える水流は鴨綠江で、今數多の編筏木材が流着してゐる、碇泊中の汽船は其の木材を積み込んでゐる所で、起重機は之が爲めに頻りに操られてゐる、船内起重機下にある人々や、船内棧上にある人々は、何れも木材積込に活動してゐるのが見える、尙汽船の附近に集つてゐる小船は、皆ジャンクで、鴨綠江を航行するものである。

挿繪　新義州にある製材所

こゝは營林廠の製材工場で、鴨綠江の左岸に位し、上流から流下した木材で、各種の建築材・函材等を製造する、一日の製材能力は四百尺〆で、夜間作業を行ふときは七百尺〆に達する、木材の山積する樣や筏に注意するがよい。

〔4〕鑛　業

（イ）概說　朝鮮は諸種の鑛物に富み、鑛業の起源亦頗る遠きにも拘はらず、我が保護政治時代には、二三外國人の稼行するものゝ外、殆ど見るに足るものがなかつたが明治三十九年七月、韓國政府が新に鑛業法及び砂鑛採取法を發布してから、次第に其の緒につき、又大正五年四月より施行の朝鮮鑛業法によつて、外國人の新に鑛業權を取得するを禁じ、益々斯業の發達を期してゐる、既に採掘する主な鑛物には、石炭・金砂金・鐵鑛等がある。

（ロ）金　金山は平安北道雲山（米國人經營）、黃海道遂安（英國人經營）を主なものとし、平安北道昌域（佛國人經營）、忠淸南道稷山等が之に次ぐものである。而して大正十二年の金產額は九百六十四貫三百十一萬四千圓である。砂金の主な產地は平安南道順安、並に稷山である。

（ハ）鐵鑛　朝鮮は頗る鐵鑛に富んでゐるが、現時の主要の產地は、黃海道安岳の赤鐵鑛を第一とし、同道の載寧及び殷栗の褐鐵鑛が、之に次ぐものである。大正十二年

の鐵鑛產額は二十四萬三千噸で、價額八十萬六千圓に當り、朝鮮鑛產中第四のものである、これから十萬噸五百六十八萬圓の銑鐵が造られてゐる。

（二）石炭　石炭の埋藏量は、頗る多いといはれてゐるが、現時採掘してゐる處は、平壤附近の大同・江東の二郡である、炭質は無煙炭に屬し、採炭は多く山口縣德山の海軍燃料廠に送られ、煉炭製造に用ゐられる。大正十二年には、三十八萬噸二百七十五萬圓のものを採掘してゐる。

尙主要の鑛物につき一表として左に掲げやう。

種別	大正十年	同十一年	同十二年
總額	一五、五三七千圓	一四、五〇四千圓	一七、三二八千圓
金	二、九九二	三、二九三	三、九一四
砂金	三五九	三二二	三三六
鐵鑛	一、七一六	一、一五三	一、八〇六
石炭	三、一九二	二、五三一	二、七五〇

金は大正六年には、六百三十五萬五千圓を產したが、以後次第に減じて、大正十二年には殆ど半減に近くなつた。

〔5〕水產業

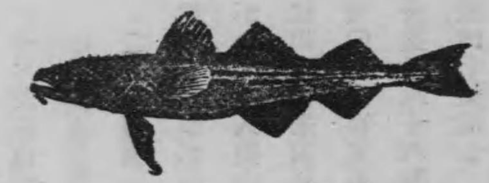
（イ）漁業　朝鮮は本土及び島嶼を合はせ、海岸線の延長四千三百餘里に達して、海岸の屈曲に富めるのみでなく、島嶼も頗る多くて、漁業上便利な位置にある、加ふるに寒暖の二流あつて水產物頗る豐饒であるに拘はらず、古來意を魚政に用ゐなかつたから、漁業について何等見るべきものがなかつたが、併合以來、鋭意斯業の發達を圖り、之が保護取締を周密にし、且つ年々相當の費用を投じて、各種の調査試驗を行ひ、斯業に關る傳習講習等をなし、其の他金品の補助貸與、漁港避難港修築費の補助をなす等、各種の施設を講じた結果、漸次發達の域に進み、大正十二年には漁獲高五千二百萬圓、製造高約三千萬圓に上り、之を十年前の大正三年の漁獲高千二百萬圓、製造高約七百萬圓に比るときは、何れも四倍餘に達し、漁夫も二十七萬人より四十二

萬人に上つた。

漁獲物の主なものを左に示さう。（大正十二年）（單位千圓）

種別	總額	種別	總額
鯖	七、二六〇	鰊	二、七二〇
鰯	六、〇四〇	鯛	二、三二〇
明太魚（めんたい）	四、一一〇	鰆（さはら）	二、三〇〇
石首魚（ぐち）	三、〇一〇	鱈	一、九四〇
		鯨	一、三五〇
		鰹（かつを）	一、六六〇
		太刀魚（たち）	一、四九〇
		海苔	一、三九〇

これ等魚族の中、鯖及び鰯は慶尚南北道の沿岸を主産地とし全羅南・江原・咸鏡南北道之に次ぎ、明太魚は咸鏡南北道及び江原道、石首魚は西海岸一帶に産し、鯖・鯛は南海岸を主とするも、全沿岸に産し、鰊は慶尚北道迎日灣を主な漁場とし、江原道・咸鏡南北道に最も多く、太刀魚は西南海岸に多く産し、鰈は慶尚南北道を主産地として、全海岸に、海苔は全羅南道に多く、慶尚南道、黃海道之に次ぐ。鯨は日本海一帶に棲息してゐるが、尙黃海道の海中にも亦之を産する、捕鯨は東洋捕鯨株式會社の獨占する處で、現在十二隻の船を使用し、大正十二年の捕鯨高は百六十四頭、五十九萬一千圓であつた。



挿繪　ぐち・めんたい

ぐちはいしもち（石首魚）ともいつて、石首族に屬する、頭中に白くて硬い小石が二箇あるから、石持と言つたのである。我が國の西南部海中に多く産する魚で、朝鮮の全羅道七山灘、忠淸道の煙島近海、黃海道の延平灘、及び平安道の魚泳島近海に、多く産し、古來其の漁業は、明太魚・鯖の漁業と共に、三大漁業に數へられた、ぐちは春夏の頃淺海へ群集するから、之を網又は釣りで捕るのである、味は佳良である。

めんたい　內地の日本海方面にも産し、キジダラ・キツネダラ・スケトウダラ等ともいはれ、鱈の一種である、普通長さ一尺五六

寸、灰白色で蒼黄色の班紋がある、咸鏡南北道及び江原道が主産地である、鮮食又は鹽藏・乾製され、祝日佳節には、鮮人の間には缺くべからざるものである。

（ロ）製鹽業　朝鮮では古くから製鹽業が行はれてゐたが、其の製法が粗雜幼稚の煑法であつたから、其の製鹽は品質劣等なるに拘はらず價貴く、食用に堪へず、したがつて輸入鹽の壓迫に堪へず、次第に衰頽しつゝあつた、因て明治四十年韓國政府は仁川府の朱安に、面積一町歩の天日製鹽試驗場を設けて、製鹽を試みた處が、其の成績頗る良存であつたから、天日製鹽を官營することゝし、先づ第一期事業として、朱安鹽田八十八町歩、鎮南浦附近に廣梁灣鹽田七百七十四町歩、合計約八百六十二町の鹽田を築造し、更に大正六年第二期事業として、朱安に百二十四町歩、道德洞に二百二十三町を築造し、更に尙第三期事業として、大正九年以降九ヶ年の繼續事業として二千六百町歩の鹽田擴張に着手し、既に京畿道南村に三百町歩、平安南道龍岡に百四十九町歩、平安北道南市に二百十七町歩、計六百六十六町歩を竣成した、食鹽は專賣ではないが、民間の製鹽は記するに足るものがない、最近三ヶ年の官鹽の製産高、並に輸移入高は左の如し。

	面積	生産高	輸移入高
大正十年度	一、二〇九町	九三、一二一千斤	一八六、一一七千斤
同十一年度	一、六五八	七五、七三〇	一九七、七九五
同十二年度	一、六五八	六七、一三七	二九二、八四五

大正十二年度の輸移入鹽の價額は、二百四千六萬六十圓に上つてゐる。

三、教授上の注意

〔1〕朝鮮の土地荒廢の狀を略說するがよい。

〔2〕併合後産業の著しく發達したことを示すがよい。

〔3〕産業の或るものは內地のそれと比較するがよい。

〔4〕産業は地勢・氣候との連絡を取りたい。

〔5〕朝鮮の産物の內地へ供給するものに注意したい。

〔6〕人蔘・明太魚・石首魚等、特殊の產物については、實物繪畫によつて說明されたい。

〔7〕產物は其の產地を地圖上に明にするがよい。

第四章　交　通

一、教授の主眼

〔1〕朝鮮に於ける陸上・海上の交通、並に內地との交通の大要を知らしめる。

〔2〕朝鮮の交通は內地に比べて、其の發達尙不十分であること。

〔3〕朝鮮の開發に鐵道の必要なことを知らしめる。

二、教材の解說

〔1〕鐵道　朝鮮に於ける鐵道の創始は、明治三十三年七月京仁線の開通にある、同三十八年に京釜線竣功し、翌三十九年京義線開通して、半島縱貫の鐵道が成つた、京釜線は二百八十一哩、京義線は三百九哩であるから、縱貫線の全長は五百九十哩である。釜山・下關間百二十三浬の間は、三千六百餘噸の新造船を以て、連絡に當つてゐるから、其の間の航海は安全迅速である、新義州からは鴨綠江の開閉鐵橋によつて、滿洲の安奉線に接續してゐるから、世界一週路の一部となつてゐる、其の他の主な線路は之を一表として左に揭げよやう。

線路	區間	哩數	線路	區間	哩數
馬山線	三浪津 馬山	二四・八	湖南線	大田 木浦	一六一・三
京仁線	永登浦 仁川	一八・四	平壤炭坑線	平壤 勝湖里	一五・七
平南線	平壤 鎭南浦	三四・三	京元線	龍山 元山	一三八・四
咸鏡南線	元山 退潮	九九・四	咸鏡北線	朱乙 會寧	八五・七

咸鏡北線は、將來滿洲の吉會線に連絡すべきもので、此の鐵道が完成連絡する曉には、我が國から滿洲に至る最短路となるものである。

此の外、朝鮮私設鐵道補助法によつて、敷設された鐵道は、大正十三年十一月に、鐵道と軌道と合せて、總延長四百二十哩三分、未開業線千二百九十一哩八分ある、これらは多くは短距離線であるが、中でも稍長いのは、大邱・浦項間六十三哩八分の朝鮮鐵道である。

要するに朝鮮の鐵道は、官私合せて最近千六百哩に過ぎないので、北海道よりは少し長いが、之を面積上から見ると、密度は甚だ小である。

唯朝鮮と內地と鐵道の異なる處は、朝鮮の鐵道は四呎八吋半の廣軌式であつて、車輛はボギー式を用ゐ、殊に鮮滿直通列軍は、歐米のものに讓らない車輛を以て編制されてゐることである。

〔2〕航路　朝鮮の近海は春夏の交、北海道の近海と同じく、濃霧が屢々起つて、船舶の往來を困難ならしめるが、釜山・木浦・仁川・鎭南浦・元山等は、安全の錨地を有つてゐるから、四時共に船舶の出入が容易且つ安全である。

中にも仁川と釜山とは、朝鮮の二大要港である、朝鮮に於ける現在航路を擧げれば左の通りである。

（一）朝鮮內に限るもの。

（二）內地を起點として朝鮮に往來するもの。

（三）內地を起點として朝鮮を經由して外國に至るもの。

（四）朝鮮を起點として內地又は外國に至るもの。

（五）外國を起點として朝鮮に來るもの。

關釜連絡船　下關・釜山間の連絡船は、現在景福丸・福壽丸・昌慶丸の三隻を、旅客專用に交替運航し、晝夜二回兩地を發船し、一航海に約九時間を要する、何れも三千六百十九噸の巨船である、尙新羅丸（三、〇三五噸）・高麗丸（三、〇二八噸）・多喜丸（一、二二七噸）の三隻は、船客輻輳の場合、及び貨物運送のため、不定期に運航してゐる。

挿繪　釜山港の大觀（下圖）、**釜山港の棧橋に於ける船車の連絡**（上圖）

下圖櫛比せる人家を隔てゝ、廣場の向に見える歐風建築は、釜山停車場で、其の後方には突堤に通ずる鐵道が見える、この鐵道の終る處が、第一棧橋であつて、關釜連絡船の發着處である。上圖は其の船車連絡の設備の實況を示したもので、棧橋には連絡船が横着となつてゐて、棧橋に連る突堤は卽ちプラットフォームで、列車が停つてゐる、今旅客は列車より下りて乘船せんとし、棧橋に殺到してゐるらしい。此の棧橋は明治四十五年三月完成したもので、長さ百五十二間、幅十二間七分、南側は三千噸乃至四千噸の汽船二隻を同時に繫留し、北側は突堤に接し、其の上に鮮滿急行列車が引近んでゐる。

第二棧橋は第一棧橋の北に當り、長さ二百間、幅二十一間、一側に七千噸乃至二萬噸の汽船二隻づゝ同時に兩側に繫留し、棧橋上には、鐵道が三線引込んでゐる、右方に海をへだてゝ見える陸地は、絕影島の一部である。

挿繪　鴨綠江の開閉橋

この繪は橋の下流から鐵橋を望んだものである、この鐵橋は鴨綠江の口から、約二十八哩の上流で、新義州驛と安東縣の新市街との間に架設されたもので、總延長三千九十八呎、鐵桁は總計十二連で、朝鮮側の六連は各二百呎、支那側の六連は各三百呎である、朝鮮側から數へて其の第九連が、開閉式になつてゐる、即ちこの鐵桁には三十三個の小車がついてゐて、之を支へてゐて、橋臺の上を左に廻つて開く、之は滑車を用ゐて極めて簡單に開閉が出來る、開閉は一日四回で、午前二回午後二回各々一時間づゝである、船は其の間にこゝを通過する。切圖は其の狀況を示したのである、鐵橋と水面との間は、滿潮時二十五呎、干潮時三十八呎あるから、普通の小船は、其の下を何時でも自由に通ることが出來る、冬季には河水氷結して、船が通らないから、開閉の必要がなくなる。橋上兩側には幅八呎の步道が設けてあつて、人が通ることが出來る、此の鐵橋を建設するに工費百五十餘萬圓を要した。

三、教授上の注意

〔1〕白地國を與へて主な鐵道・航路を記入させるがよい。
〔2〕內地との交通は、安全迅速であることに殊に注意するを要する。
〔3〕主要の朝鮮鐵道は廣軌式であることに注意。
〔4〕朝鮮の縱貫鐵道は、世界交通路の一部であることに注意するを要する。

第五章　住民・都邑

一、教授の主眼

〔1〕朝鮮の人口並に其の增殖
〔2〕朝鮮の主な都邑の狀況、並に內地人の都會的分布を知らせる。

二、教材の解說

〔1〕**住民**　朝鮮の人口、並に各道の分布・密度に就いては、第一章區域の條に既に之を掲げた、即ち戶數は三百四十萬四千で、人口は內地人が四十萬三千、朝鮮人が一千七百八十萬五千、外國人が三萬五千、合計一千八百三十二萬三千、一方里の人口一千二百五十人であるから、內地の密度よりは遙に小さい。主要の都邑は大邱・木浦・群山・仁川・京城・開城・平壤等の、何れも黃海の方面にあるもので、農產物の取引が何れも主な商業である。

內地人の朝鮮に移住するものは、九州中國のもの最も多く、內地人の總數は、大正元年には二十四萬四千であつたが、大正十二年末には四十萬三千となつた。

〔2〕**釜山**　慶尙南道の東南隅に位し前に絕影島が橫はつてゐるから、風波穩かである、加ふるに築港事業も進行して、船舶出入が安全である、朝鮮の南玄關で、貿易の盛なこと朝鮮第一に位し、移輸出品には米・大豆・綿・魚類・生牛・牛皮等あり、移輸入は綿布・綿絲・砂糖・石油・豆粕・小麥粉等があつて、大正十二年の貿易額類は、移輸出に九千三百萬圓、移輸入に七千三百萬圓を算した、人口は七萬九千、內、內地人三萬五千あつて、釜山の主要部をなしてゐる。

〔3〕**大邱**　慶尙北道の南部に位し、道廳・府廳・覆審法院等がある、穀類・果實・綿花煙草・生絲等の製造・集散が行はれ、古來有名の市場がある、人口四萬五千、內、內地人一萬二千ある。

挿繪　朝鮮人のつぼ賣り

朝鮮人は、內地人が小桶を使用するやうに、つぼを使ふから、其の需要が頗る多い、此の繪は、朝鮮人がつぼを脊負つて、市街に出て之を賣り歩く處である、ゆるき股引胴衣をつけて、鞋をはいてゐるところ、朝鮮人の風俗がよく見えてゐる。

挿繪　大邱の大市

東門市西門市の二市に分かれ、日を異にして開き、日用品雜貨を取引する、殊に春秋二回の市は、遠近各地から商賈の來り集まるもの數が知れない、しかし鐵道が開通してから、市況次第に衰へる傾きがある、市街の家屋は草葺屋根が多い。

〔4〕**木浦**　湖南線の終點、榮山江の口に臨み、府廳・郡廳がある、又繰綿・精穀の工場がある、貿易品の主なものは米穀・綿・海產物・油等である、人口二萬二千、內・內地人七千ある。

〔5〕**群山**　群山は錦江に沿へる河港である、巨船を容れるには適しないが、其の東方に公州・江景・全州といふやうな大市場を控へて居り、米穀の積出港としては、朝鮮第一で、大正十二年の積出高は玄米八十萬二千石、其の金額二千二百萬圓、精米二十八萬五千石、其金額九百萬圓、合百八萬七千石、三千百萬圓に達してゐる。

〔6〕**京城**　漢江の北に位し、四方に山岳を繞らし、東南に南山、東に駱駝山、北に白岳山、西に仁王山が聳え、西南の一隅僅に開けて、頗る要害の地である。李朝太祖即位の三年十月、開城からこゝに移られ、以來五百二十年王城の所在地となつた。今は朝鮮總督府の所在地で、京畿道廳・京城府廳・高等法院・覆審法院・京城大學（清凉里）・工業・商業・醫學・法學等の專門學校、其の他男女の中等學校、各種の銀行等が設けられ、李王の昌德宮・景福宮、官幣大社朝鮮神宮（天照大神明治天皇を祀る）等がある。府の內外に見るべき

京城及其附近

萬八千、內・內地人七萬六千あり、朝鮮第一の都會たること勿論である。

挿繪　京城の市街

此の繪は、南山の中腹の南山公園から、北に向つて京城を見下ろした景である、山頂の尖つて見えるのは北漢山卽ち白岳で、其の麓に甍の見えるのは景福宮で、景福宮の南の大西洋建築は、新總督府である。其の他中央に見える西洋建築は、朝鮮のものが少なくない、南山・漢陽・パゴダの諸公園、奬忠壇・關帝廟・博物館・昌慶苑・商品陳列館・蠶島の勸業模範場支場の果樹園がある。

龍山は京城の西南部をなし、明治三十七年、京義線の出發點、第二十師團司令部の所在地となつてから、工場・商店・住宅・學校等も建設されて、遂に今日の繁榮を見るに至つた、京城は人口二十八

銀行や京城郵便局である、南山の麓はもと泥峴といつた日本居留地で、今京城の中心である、市街は盡く改築されて、內地の市街に比して遜色がない。

挿繪　京城の內地人の町

右方手前の宏壯な建物は、本町郵便局である、本町はこゝには現はれてゐない、畫中正面街路の分岐する處は、南大門驛から、最も廣闊繁榮な鐵路に通ずる南大門通りと、之れより左方に分岐する長谷川町との分岐點で、右が南大門通左が長谷川町である、內地の市街と大差のないことがわかる。

〔7〕仁川　鐵道京仁線の終點に位し、明治十六年開港以來次第に發達し、大京城の門戶として、貿易も次第に進展し、米穀・人蔘・葉煙草・皮革類を輸移出し、金巾類・麻布・石油・食料品を輸移入し、其の高一億一千萬圓に上り、釜山と並んで朝鮮の二大開港場である、港は大小の月尾島と陸地とを連絡し、之と相對して、沙島から馴導堤七百九十間を伸ばして內港を形成し、其の奥に船渠を設けて船舶の出入に便してゐる、

平壤と大同江

（船渠の構造は海岸の條に述べた）人口四萬餘、內地人は一萬一千ある。

〔8〕**平壤**　前に大同江を控へ、後に大城山を負ひ、頗る要害の地である、文錄の役に小西行長之に據り、日清の役には皇軍清兵をこゝに破り、古くは高句麗の東川王の後四百四十年の都であつた、故に史蹟頗る多く、今尙牡丹臺・乙密臺・玄武門・大同門・練光亭・萬壽臺等の史蹟がある。附近一帶は地味肥沃の平野で、米其の他の穀產に富み、北鮮第一の物資集散地である、人口九萬五千內地人二萬一千ある。

〔9〕**鎭南浦**　大同江口の右岸に位し、平安南北兩道及び黃海道の農產物、石炭・鐵鑛・金鑛・製鐵・食鹽等を積出す大門戶である、明治三十年開港以來長足の發達を遂げ、大正十二年の貿易額は輸移出一千六百萬圓、輸移入九百七十萬圓に上つた、人口二萬六千、內地人五千ある。

〔10〕**元山**　咸鏡南道の南端にあり、德源灣に臨み京元線の終點で、東岸第一の貿易港である、大豆・乾鹽魚・鮮魚を積み出し、粟・綿布・木材・金屬製品・豆粕等を積み入る、輸移出は四百六十萬圓、輸移入は約一千三百萬圓に達する。（大正十二年）人口三萬一千中、內・內地人は八千に近い。

〔11〕**淸津**　咸鏡北道の中部にあり、日本海に臨む一要津である、鏡城・羅安・會寧・間島等の門戶で、農產物雜貨を取引する。人口一萬一千、內地人は四千ある。

〔12〕**羅南**　淸津の西南四里、鏡城の北五里にある、咸鏡北道廳の所在地である、第十九師團司令部が置かれてから、俄に發達した所で、今や人口一萬二千、內・內地人約六千ある。

三、教授上の注意

〔1〕都會の教授は詳細に陷らず、其の要點を捕へたい。

〔2〕市街の構造が、多少內地と異なる點に注意するがよい。

〔3〕略圖を與へて都會分布圖を造らせるもよい。

〔4〕內地人の分布にも注意したい。

第五編　關東州

一、教授の主眼點

關東州の地理の概要を授けて、關東州と我が國、關東州と滿洲との關係を知らせる。

二、教材解說

〔1〕區域　關東州は滿洲最南部の遼東半島の南部を占め、東は黃海・西は渤海灣に臨み、南は直隷海峽をへだてゝ、支那本部の山東半島と相對し、北は中立地帶をへだてゝ、滿洲に續いてゐる。

面積は最近の調査によると、二百二十一方里で、內地の小さい縣に相當する、之に州外即ち鐵道附屬地の面積十六方里を加へると、二百三十七方里となる。人口は州內に七十二萬六千あつて、內地人が八萬七千、其の他は概ね支那人である、又州外の人口は二十五萬三千で、其內、內地は約八萬である。（大正十三年）

抑關東州の租借は、明治三十一年三月二十七日、二十五年の期間を以て、露國が清國から租借したのに始まる、後明治三十八年九月五日、ポーツマスに於て締結した日露講和條約、及び同年十二月二十二日、日清間に成立した滿洲協約により、遼東租借地に於ける一切の權利は、我が國が繼承したのである。露清條約によれば關東州の租借期限は、大正十二年三月二十七日であつたが、更に大正四年五月二十五日調印された日支協約により、租借期限を九十九年に延長し、西曆千七百九十七年、卽ち大正八十六年三月を以て滿期と定められた。

我が國は旅順に關東廳を置き、關東長官をして之を治めさせてゐる、同長官は關東州を管轄する外、南滿洲に於ける鐵道線路警衛上の取締のことをも掌る。

行政上では、旅順・大連の二區に分かち、各區に民政署を置き、大連區は更に直轄・金州・普蘭店及び貔子窩に分かち、各之に民政支署が置いてある。

〔2〕產　業

（イ）農業　州内は到る處に丘陵が起伏してゐる上に、面積が小さいから、一つも河川・平野の著しいものがない、したがつて農業上には見るに足るものがない、僅に玉蜀黍（包米）・蜀黍（高粱）・粟（穀子）・大豆等、少額の產出あるばかりである。

（ロ）水產業　關東州の海面は、冬季は寒冷の爲め、漁業は殆ど中止の狀態となるが夏季は鯛・鱈・太刀魚・鯖・鰆・鰡等の魚族が洄游するので、これ等の魚獲が盛に行はれる漁業者は支那人に一萬四千、日本人に一千あつて、漁獲高は支那人に百十九萬三千圓日本人に五十六萬八千圓、合計百七十六萬一千圓であるから、餘り盛大とはいへないが、人口の割合から見ると、さほど小さくもない、左に日支人の主な漁獲物を示さう。

（大正十一年單位千圓）

	日本人	支那人	合計
鯛	三四七千圓	六九千圓	四一六千圓
鰹（かつを）	四九	一七	六六
鱈（たら）	三三	七	四〇

鯖	二五	二〇	四五
鱈	三	四一三	四一六
太刀魚	一	一五八	一五八
石首魚（ぐち）	一〇	七三	八三
鰕（えび）	一	八三	八三
鰈（ひらめ）	一	二五	二五
計	五六八	一、一九三	一、七六一

前表の外、我が東洋捕鯨株式會社が、二十七頭十五萬一千圓の鯨を捕獲してゐる。

製鹽　關東州の海岸は、一般に空氣乾燥し、雨量が少なく、吹風多く、蒸發盛で加ふるに砂濱に富んでゐるから製鹽に適し、嚴冬の季節を除く外、斯業が行はれてゐる、關東州が露國の治下に入るや、鹽田は荒廢の極に達し、鹽業大に衰頽したが、明治三十八年關東州が我が治下に置かるゝや、邦人の企業勃興し、各地に鹽田の開設を見、支那人の荒廢鹽田も又修復され、以て今日の一大製鹽地となるやうになつた。

左に主な鹽田の所在地・鹽田面積を示さう。

旅順管内	雙島灣	一、六六六千坪	嶺子管内 夾心子	三、九九二千坪
	營城子	三七六	東老灘	二、八五九
	旅順	二六七	碧流河	一、一九六
普蘭店管内	普蘭店	一、七五六		
	五島	二、一六一	合計	一四、九六二

右の鹽田中一千三十七萬四千坪は日本人、四百五十八萬八千坪は支那人の經營するものである。

左に製鹽高を示さう。

	日本人	支那人	合計
大正九年	一七一、六一四千斤	一三七、〇一五千斤	三〇八、六三〇千斤
同　十　年	一二三、二一九	一〇七、八六〇	二三一、〇七八
同十一年	——	——	三二四、六〇八
同十二年	一四〇、六五八	一〇七、五五七	二四八、二一四

關東州鹽は、年々內地に移入される高が少なくない、今最近三ヶ年の移入高を左に

掲げる。（單位千斤）

	一般用	自家工業用	合計
大正十年	一三一、五〇〇	六、七二〇	一三八、二〇〇
同十一年	一一四、〇四〇	三九、九四六	一五三、九八六
同十二年	一三三、五〇〇	七九、〇三二	二一二、五三二

挿繪　關東州の鹽田（雙島灣）

關東州は、雨量が少なく、空氣乾燥し、砂濱が多くて、製鹽に適するから、天日製鹽が行はれてゐる、但雨季の七月頃と、鹽田の氷結する十二月以後の四ヶ月間は休止するのである、著名の製鹽地は、貔子窩・雙島灣・五島列島等である。

この繪は雙島灣鹽田の大蒸發池の光景である、雙島灣は旅順の西北約三里にある小灣で、其の沿岸の鹽田は、面積に比して收穫が多い、白く見えるのは、蒸發池に海水が充たされてある所、こゝに立つてゐる人は海水を攪拌して、其の結晶を促してゐる、海水のない部分では、結晶した鹽をかき集めて居る、稍遠くに三角形に積まれてあるのは出來上つた鹽である。

（八）工業　關東州の工業は、近年次第に發達の機運に向つてゐるけれども、未だ其の產額の大きいものは少ない、數多の工業品中、獨り其の產額の大きいものは豆粕・豆油である、それ等工場は州內八十三箇に及んでゐるが、大連が其の中心である、それ等の工場から製出した豆粕は、約二千七百萬枚價額五千二百萬圓、豆油一億五千三百萬斤、價額二千四百萬圓で、關東州工業の大宗である、尙豆粕は撒粕に百九十萬四千圓を出してゐる。之に次ぐものはセメントであるが、其の產額は遙に下つて百九十餘萬圓に過ぎない。

大豆を壓搾して豆粕・豆油を製造する工場は、油房（油坊）と稱へ、其の大部は大連を中心とする、大連民政署內にある油房中、日淸製油・大連製油・三泰油房等は、最も盛大に營んでゐる、製造法には水壓法を用ゐるものが多いが、ベンヂン抽出法に依るのもある。